

東京大学過去問題集 漢文編

—BEYOND TRADITION—

出題年	文 科			理 科		
	番号	出 典	頁	番号	出 典 (文科と共通の場合は省略した)	頁
2024	三	方東樹 『書林揚鱗』	3	三		3
2023	三	吳兢 『貞観政要』	6	三		6
2022	三	呂不韋 『呂氏春秋』	9	三		9
2021	三	井上金峨 『霞城講義』	12	三		12
2020	三	班固 『漢書』	15	三		15
2019	三	黄宗羲 『明夷待訪録』	18	三		18
2018	三	王安石 『新刻臨川王介甫先生文集』	20	三		20
2017	三	劉元卿 『賢奕編』	23	三		23
2016	三	蘇軾「寓居定恵院之東雜花満 山有海棠一株土人不知貴也」	25	三		25
2015	三	紀昀 『閱微草堂筆記』	28	三		28
2014	三	司馬光 『資治通鑑』	31	三		31
2013	三	金富軾 『三國史記』	34	三		34
2012	三	左丘明 『春秋左氏伝』	37	三		37
2011	三	白居易 「放旅雁」	40	三		40
2010	三	文瑩 『玉壺清話』	43	三		43
2009	三	万里集九 『梅花無尽蔵』	45	三		45
2008	三	俞樾 『右台仙館筆記』	47	三		47
2007	三	陶宗儀 『輟耕録』	50	三		50
2006	三	彭乗 『続墨客揮犀』	52	三		52
2005	三	陳其元 『庸間齋筆記』	54	三	蘇洵 『嘉祐集』	56
2004	三	田汝成 『西湖遊覧志余』	58	三	蘇軾 『東坡志林』	61
2003	三	利瑪竇 『畸人十篇』	63	三	韓非 『韓非子』	65
2002	三	龔自珍 「病梅館記」	67	三	応劭 『風俗通義』	69
2001	三	李賀 「蘇小小墓」 曾益 『李賀詩解』	71	三	韓愈 『昌黎先生文集』	74
2000	三	何喬遠 『閩書』	76	三	司馬遷 『史記』	78

出題年	文 科			理 科		
	番号	出 典	頁	番号	出 典 (文科と共通の場合は省略した)	頁
1999	四	李奎報 『東国李相国集』	80	四	姚思廉・魏徵 『梁書』	84
	七	杜甫 「百憂集行」	82			
1998	四	方苞 『方望溪遺集』	86	四	蘇軾 『東坡題跋』	90
	七	元稹 「遺悲懷三首」 其一	88			
1997	四	趙翼 「後園居詩十首」 其五	92	四		92
	七	伊藤仁斎 『古学先生文集』	94			
1996	四	紀昀 『閱微草堂筆記』	96	四		96
	七	曹植 「雜詩六首」 其二	98			
1995	四	班固 『漢書』	100	四	俞正燮 『癸巳存稿』	104
	七	李賀 「題歸夢」	102			
1994	四	胡震亨 『唐詩談叢』	106	四		106
	七	慧皎 『高僧伝』	108			
1993	四	蘇軾 「與王郎昆仲及兒子邁 遶城觀荷花登峴山亭晚入飛英 寺分韻得月明星稀四首」 其二	110	四	崔述 『考信録』	114
	七	趙南星 『笑贊』	112			
1992	四	不詳 『列異伝』 李白 「望夫山」 劉禹錫 『望夫石』	116	四		116
	七	干宝 『搜神記』	118			
1991	四	庾信 「梅花」	120	四	阮閱 『詩話總龜』	124
	七	羅大經 『鶴林玉露』	122			
1990	四	袁宏道 「荒園独歩」	126	四	韓愈 『韓昌黎文集』	130
	七	周煒 『清波雜誌』	128			
1989	四	元稹 「夜坐」	132	四	李元綱 『厚德録』	136
	七	袁中道 『珂雪齋集』	134			

第三 問

(二〇二四年・文理共通)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

凡^a著^シ書^ヲ立^{ツルハ}論^ヲ、必^ズ本^ニ於^レ不^{シテ}得^レ已^{ムヲ}而有^{ルニ}言^ヲ。而^ル後^ニ其^ノ言^ヲ当^{タリ}其^ノ言^ヲ信^{マコトニシテ}、其^ノ言^ヲ有^リ用^ヲ。故^ニ君^ノ子^ノ之^ノ言^ヲ、達^{シテ}事^ニ理^ニ而^ミ止^ミ、不^レ為^サ三^ニ敷^ニ衍^ニ流^ニ宕^ニ、放^ニ言^ヲ高^シ論^ヲ、取^{ルヲ}快^ヲ一^ニ時^ニ。蓋^シ非^{ザレバ}要^ニ則^チ可^ク厭^{イトフ}、不^レ確^{ナラ}則^チ可^シ疑^フ。既^ニ厭^ヒ且^ツ疑^{ヘバ}、而^ル其^ノ書^ヲ不^レ可^{カラ}貴^ビ信^ズ矣^ニ。君^ノ子^ノ之^ノ言^ヲ、如^ク寒^ニ暑^ニ昼^ニ夜^ニ、布^フ帛^{ハク}菽^{シユク}粟^{ゾク}、無^ク可^レ疑^フ、無^シ可^レ厭^フ。天^ノ下^ノ万^ノ世^ノ信^{ジテ}而^キ用^レ之^ヲ、有^{リテ}丘^ニ山^ニ之^ノ利^ニ、無^シ毫^{ガウ}末^{マツ}之^ノ損^ニ。以^テ此^ヲ觀^{レバ}、古^ノ今^ノ作^ヲ者^ヲ、昭^{トシテ}然^ニ若^シ白^ノ黑^ノ矣^ニ。著^{スニ}書^ヲ不^レ本^ニ諸^ヲ身^ニ、則^チ只^ダ是^レ鬻^{ヒサグ}其^ノ言^ヲ者^{ナル}耳^ノ。老^ノ莊^ノ申^ニ韓^ニ之^ノ徒^ヲ、学^ヲ術^ヲ雖^モ偏^{ナリト}、要^ハ各^ハ能^ク自^{ミづカラ}見^{アラハル}於^ニ天^ノ下^ノ後^ニ世^ニ。斯^ノ義^ヲ也^ニ、古^ノ文^ヲ章^ヲ之^ノ士^ハ猶^ホ能^ク及^ブ之^ニ。降^{くだリテ}而^{シテ}不^レ能^ク乃^チ剽^{ゾクセリ}賊^ヲ矣^ニ。夫^レ剽^{シテ}賊^ヲ以^テ為^{ツクルスラ}文^ヲ、

且不^レ足^ニ以^テ伝^フル^ニ後^ニ、而^ルニ況^ンヤ剽^シ賊^テ以^テ著^スフヤ書^ヲ邪。然^リ而^シテ有^ル識^者恒^ツ病^ム書^ニ之^キ多^ク也、豈^ニ不^レ由^ラ此^ニ也哉。

(方東樹『書林揚鱗』による)

〔注〕 ○敷衍流宕——節度なく述べ立てること。

○布帛——ぬのときぬ。日常の衣服を指す。

○菽粟——マメとアワ。日常の食物を指す。

○鬻——売ること。

○老莊申韓——老子・莊子（道家）、申不害・韓非子（法家）の略。

○剽賊——剽窃。賊は、ぬすむ。

設問

- (一) 傍線部 b・d・e を平易な現代語に訳せ。
- (二) 「著_レ書立_レ論、必本_ニ於不_レ得_レ已而有_レ言」(傍線部 a) とはどういうことか、簡潔に説明せよ。
- (三) 「寒暑昼夜」(傍線部 c) は「君子之言」のどのようなありかたをたえているか、簡潔に説明せよ。
- (四) 「有_レ識者恒病_ニ書之多_ニ也、豈不_レ由_レ此也哉」(傍線部 f) とあるが、「此」は何を指しているか、わかりやすく説明せよ。

第三問

(二〇二三年・文理共通)

先頭に戻る

次の文章は唐の太宗、李世民（在位六二六～六四九）が語った言葉である。これを読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。

朕聞晋武帝自平吳已後、務在驕奢、不復留心治政。何曾退朝、

謂其子劭曰、「吾每見主上、不論經國遠圖、但說平生常語。此非

胎厥子孫者也。爾身猶可以免。」指諸孫曰、「此等必遇乱死。」及

孫綏、果為淫刑所戮。前史美之、以為明於先見。

朕意不然。謂曾之不忠、其罪大矣。夫為人臣、当下進思

竭誠、退思補過、將順其美、匡救其惡。所以共為治也。

曾位極台司、名器崇重。当直辞正諫、論道佐時。今乃退有後

言^{ミテ}進^ハ無^シ廷^テ諍^{セウ}。以^テ為^ス明^ハ智^ト不^タ亦^{アヤマリナラ}謬^一乎。顛^{たふレテ}而^フ不^ン扶^{たすケ}、安^{クンゾ}用^{キンヤ}二^ニ彼^ノ相^ヲ。

(『貞觀政要』による)

〔注〕

○晋武帝——司馬炎（二三六～二九〇）、魏から禅讓を受けて晋を建てた。

○呉——国の名。

○驕奢——おごってぜいたくであること。

○何曾——魏と晋に仕えた人物（一九九～二七八）。子に劭、孫に綏がいる。

○淫刑——不当な刑罰。

○将順——助け従う。

○匡救——正し救う。

○台司——最高位の官職。

○名器——名は爵位、器は爵位にふさわしい車や衣服。

○廷諍——朝廷で強く意見を言うこと。

○相——補助する者。

設問

- (一) 傍線部 b・c・d を平易な現代語に訳せ。
- (二) 「爾身猶可_二以免_一」(傍線部 a) を、「爾」の指す対象を明らかにして、平易な現代語に訳せ。
- (三) 「後言」(傍線部 e) とあるが、これは誰のどのような発言を指すか、簡潔に説明せよ。
- (四) 「顛而不_レ扶、安用_二彼相_一」(傍線部 f) とあるが、何を言おうとしているのか、本文の趣旨を踏まえてわかりやすく説明せよ。

第三 問

(二〇二二年・文理共通)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。

宋人有^ニ取^ル道^ヲ者。其^ノ馬不^レ進、^マ到^{シテ}而^ズ投^ズ之^ヲ。如^キ此^{クノ}者^{こと}三^{タビアリ}。雖^モ造父之^ニ所^ト以^{スル}威^マ馬、不^レ過^ギ此^ニ矣。不^{シテ}得^ル造父之道^ヲ而^ダ徒^ダ得^ル其^ノ威^ヲ、無^シ益^ニ於^ニ御^ニ。

人主之不^{ナル}肖^リ者有^リ似^{タル}於^ニ此^ニ。不^{シテ}得^ル其^ノ道^ヲ而^ダ徒^ダ多^ク其^ノ威^ヲ。威^{いよいよ}愈^ク多^{シテ}、民^ハ愈^キ不^キ用^{ラレ}。亡国之主、多^シ以^テ多^ク威^ヲ使^{フコト}其^ノ民^上矣。

故^ニ威^ニ不^レ可^レ無^レ有[、]而^不足^ラ專^ラ恃^{たのムニ}。譬^{たと}之^ヲ若^シ塩^ニ之^{ケル}於^ニ味^ニ。凡^ソ塩之用^ハ、有^リ所^{スル}託^ス也。不^レ適^サ則^チ敗^{リテ}託^ヲ而^不可^{カラ}食^{ラフ}。威^モ亦^タ然^リ。必^ズ有^{リテ}所^{スル}託^ス、然^ル後^ニ可^シ行^フ。惡^{クニ}乎^カ託^ス。託^ス於^ニ愛^ト利^ニ。愛利之心^ニ論^{さして}、威^チ乃^シ可^シ行^フ。威^{はなは}太^ダ甚^{ダシケレバ}、則^チ愛利

之心息^{やム}。愛利之心息^{ミテ}、而徒疾^{ダハゲシク}行^{ヘバ}威^ヲ、身必咎^{ズとガアリ}矣。此殷夏^ト之所以^f絶^{ユル}一也。

（『呂氏春秋』による）

〔注〕 ○瀾水——川の名。 ○造父——人名、昔の車馬を御する名人。

○殷夏——ともに中国古代の王朝。

設問

- (一) 傍線部 a・c・d を現代語訳せよ。
- (二) 「人主之不肖者有_レ似_二於_一此_二」(傍線部 b) を、「此」の指す内容を明らかにして、平易な現代語に訳せ。
- (三) 「譬_レ之若_二塩之於_レ味_一」(傍線部 e) とあるが、たとえの内容をわかりやすく説明せよ。
- (四) 「此殷夏之所_二以_レ絶_一也」(傍線部 f) とあるが、なぜなのか、本文の趣旨を踏まえて簡潔に説明せよ。

第三 問

(二〇二二年・文理共通)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。

凡^ソ為^{タル}下^ア者、為^ニ上^ニ所^ニ信、然^ル後言有^リ所^ニ取。為^ル上^ニ者、為^ニ下^ニ所^ニ信、然^ル後
令有^リ所^ニ下。事不^レ欲^セ速^{ヤカニセント}。欲^レ速^{ヤカニセント}則不^レ行^{ハレ}也。庸愚之主^ハ必無^シ斯^ノ
憂^ヒ。唯^ダ聰明之主^{タノム}恃^ニ其材^ニ者、或^{イハ}至^ル一旦行^ヒ之、不^レ有^レ所^ニ顧^{ミル}。夫知^リ善^ヲ而
欲^{スル}速^{ヤカニ}成^{サント}一^ハ者、小人之事也。君子則不^レ然^ラ。一言一行、其^ノ所^ニ及^ブ大遠^シ。
与^リ其見^ン効^ヲ於一時、寧^ロ取^レ成^ヲ於子孫^ニ。是^レ謂^フ知^{ルト}大体^ヲ也。

下民之愚、承^{ウクル}弊之日久^{シケレバ}、則安^ン於其弊、以^テ為^ス無^レ便^ニ於此^ニ。加^{シカ}之^{ミナ}。
狡猾^{カウ}者心知^リ其弊、而口不^レ言、因^リ以^テ自恣^{ホシイままニ}之。今欲^レ矯^ニ其弊、
則愚者狎^{ナレテ}其所^ニ習、而不^レ肯^{ガヘンゼ}之。狡者乃乘^{ジテ}其機、陷^{クラハスニ}之以^テ不^レ利^{アラ}於^レ

是^ニ乎^{ゼウ}擾^{らん}乱^{シテ}不^レ成^ラ矣。大抵維^ニ持^シ数^フ百世之後^ヲ、置^ニ国家^ヲ於^ニ泰山之安^{キニ}者、如^ハ無^シ近^{キガ}効^ニ。以^テ其^ノ無^{キヲ}近^ニ効^ニ、行^フ之^ヲ於^ニ未^ダ信^ゼ之民^ニ、所^コ以^ル不^レ服^セ也。

(井上金峨『霞城講義』による)

〔注〕 ○大体——政治の概要。

○陷——はたらきかけ、誘導する。

○泰山之安——名山として有名な泰山のように安定していること。

設問

- (一) 傍線部 a・d・e を現代語訳せよ。
- (二) 「庸愚之主必無_二斯憂_一」(傍線部 b) とあるが、なぜなのか、簡潔に説明せよ。
- (三) 「与_二其見_一効於一時、寧取_二成於子孫_一」(傍線部 c) を、平易な現代語に訳せ。
- (四) 「以_二其無_一近効、行之於未_レ信之民、所以不_レ服也」(傍線部 f) とはどういうことか、わかりやすく説明せよ。

第三問

(二〇二〇年・文理共通)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。

于公^ウ為^ハ県獄吏^リ、郡決曹^ノ。決^{スル}獄平^{コト}^a、羅^ラ文法^{カニ}者^モ、于公^ノ所決^{スル}皆不^レ恨^ミ。

東海^ニ有^リ孝婦^ニ、少^{ワカクシテ}寡^{トナリ}、亡^シ子。養^{フコト}姑^{しうとめヲ}甚^ダ謹^ム^b。姑^ハ欲^レ嫁^レ之、終不^レ肯^ハ。姑^ハ謂^{ヒテ}隣人^ニ曰^{ハク}、「孝婦^ニ事^ス我^{ハク}勤苦^ス。哀^{レム}其亡^{クシテ}子^{ルヲ}守寡^ヲ。我^{ハク}老^{イテ}久^{シク}累^{ワズラハス}二丁^ニ壯^ヲ奈何^{セント}。其^ノ後姑^ハ自^ラ經^{クビレテ}死^ス。姑^ハ女^ヲ告^{グルニ}吏^ニ、「婦^ハ殺^{スト}我^ガ母^ヲ」。吏^ハ捕^{ラフ}孝婦^ヲ。孝婦^ハ辞^ス不^ト殺^サ姑^ヲ。吏^ハ驗^{スルニ}治^ス、孝婦^ハ自^ラ誣^{シヒテ}服^ス。具^{タテマツラル}獄上^レ府^ニ。于公^ハ以^モ為^{ハク}此^ノ婦^ハ養^{フコト}姑^ヲ十^ニ余^ニ年^ヲ、以^テ孝^ヲ聞^ク。必^ズ不^レ殺^サ也^ト。太守^ハ不^レ聽^カ、于公^ハ争^{フモ}之^ヲ、弗^ハ能^ハ得^ル。乃^チ抱^キ其^ノ具^ヲ獄^ニ、哭^{コクシ}於^ニ府上^ニ、因^{リテ}辞^{シテ}疾^ト去^ル。太守^ハ竟^{ツビニ}論^{ジテ}殺^ス孝婦^ヲ。」

郡中枯旱^{こかんスルコト}三年。後太守至^リ、卜筮^{ぼくぜい}其故^一。于公曰^{ハク}、「孝婦不当^{ルニ}死^ニ、前太守彊断^{ヒテズ}之^ヲ。咎党^{とがもシクハ}在是^ニ乎^ト」。於是太守殺^シ牛、自祭^リ孝婦冢^{つか}、因^{リテ}表^ス其墓^ニ。天立^{たちどころニ}大雨^{イニフリ}、歲孰^{じゅくス}。郡中^f以此大敬^ニ重于公^ヲ。

(『漢書』による)

〔注〕

○獄史、決曹——裁判をつかさどる役人。

○文法——法律。

○東海——郡の名。

○丁壯——若者。

○驗治——取り調べる。

○具獄——裁判に関わる文書一式。

○府——郡の役所。

○太守——郡の長官。

○枯旱——ひでり。

○表——墓標を立てる。

○孰——熟と同じ。

設問

- (一) 傍線部 a・c・d を現代語訳せよ。
- (二) 「姑欲嫁之、終不肯」(傍線部 b) を、人間関係がわかるように平易な現代語に訳せ。
- (三) 「于公争之、弗能得」(傍線部 e) とはということか、わかりやすく説明せよ。
- (四) 「郡中以此大敬重于公」(傍線部 f) において、于公はなぜ尊敬されたのか、簡潔に説明せよ。

第三 問

(二〇一九年・文理共通)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。

学校^ハ所以^コ養^フ士^ヲ也。然^{レドモ}古之聖王、其意^ノ不^ニ僅^ニ此^ニ也。必^ズ使^メ治^ム天下^ヲ之具^{ヲシテ}皆^デ出^デ於^中学校^{ヨリ}而後^ル設^ニ学校^ヲ之意始^{メテ}備^{ハル}。天子之所^{トスル}是^ハ未^ダ必^{ズシモ}是^{ナラ}天子之所^{トスル}非^ハ未^ダ必^{ズシモ}非^{ナラ}。天子亦遂^ニ不^ニ敢^ハ自^ラ為^ス非^ハ是^ハ而公^ニ其非^ハ是^ハ於学校^ニ。是^ノ故養^フ士^ヲ為^ル学校^ノ之一事、而学校不^ニ僅^ニ為^ス養^フ士而設^ニ也。

三代以下、天下之是非一^ニ出^ツ於朝廷^{ヨリ}。天子榮^{トスレバ}之則群趨^{ハシリテ}以^シ為^シ是^ト。天子辱^{トスレバ}之則群擿^{ナゲウチテ}以^テ為^ス非^ト。而其所^ノ謂^フ学校^{ナル}者、科挙^{モテ}鬻^{ガウ}争^{サウシ}、富貴^{モテ}熏^{クン}心^{シン}。亦遂^ニ以^テ朝廷^ノ之勢利^ヲ一^ニ變^ス其本領^ヲ而士^{シテ}之有^ル才能學術^ニ者、且^ツ往^ニ往^ニ自^ラ拔^{キンデ}於^ニ草野^ノ之間^ニ、於^ニ学校^ノ初^メ無^レ与^ユ也。究^{キウ}竟^{キヤウ}養^フ士^ヲ一

事亦失^f之矣。

(黄宗羲『明夷待訪録』による)

〔注〕 ○三代以下——夏・殷・周という理想の治世が終わった後の時代。

○鬻^レ争——騒ぎ争う。

○熏^レ心——心をこがす。

設問

(一) 傍線部 a・d・e の意味を現代語で記せ。

(二) 「不^三敢自為^三非是^二」(傍線部 b) を平易な現代語に訳せ。

(三) 「以^三朝廷之勢利^二」変其本領^二」(傍線部 c) とはどういうことか、わかりやすく説明せよ。

(四) 「亦失^レ之矣」(傍線部 f) とあるが、なぜ「亦」と言っているのか、本文の趣旨を踏まえて説明せよ。

第三問

(二〇一八年・文理共通)

先頭に戻る

次の文章は、宋の王安石が人材登用などについて皇帝に進言した上書の一節である。これを読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。

先王之為^{をさムルヤ}天下^ヲ不^{シテ}患^ヘ人之不^{ルヲ}為^{ナサ}而患^ヘ人之不^{ルヲ}能^ハ不^{シテ}患^ヘ人之不^{ルヲ}

能^ハ而患^フ己之不^{ルヲ}勉^メ。

何^{ヲカ}謂^フ不^{シテ}患^ヘ人之不^{ルヲ}為^{ナサ}而患^フ人之不^{ルヲ}能^ハ。人之情^ノ所^ノ願^フ得^{ルヲ}者^ハ善

行・美名・尊^ニ爵^ニ・厚利也。而先王能^ク操^{トリ}之以^テ臨^ム天下之士^ニ。天下之士

有^{レバ}能^ク遵^レ之以^テ治^{ムル}者^ニ則^チ悉^ク以^テ其^ノ所^ノ願^フ得^{ルヲ}者^ニ以^テ与^フ之^ニ。士不^{レバ}能^ハ則^チ已^ム矣。

苟^{シクモ}能^ク則^チ孰^カ肯^{ヘテ}舍^ス其^ノ所^ノ願^フ得^{ルヲ}而不^ラ自^ラ勉^{メテ}以^テ為^ラ才^ト。故^ニ曰^{ハク}不^レ患^ヘ人之

不^レ為^サ患^フ人之不^{ルヲ}能^ハ。

何^ヲ謂^フ下^下不^{シテ}患^ヘ二^二人^一之不^ル能^ハ而^而患^フ己^中之不^ル勉^メ。先王之法、所^e以^f待^レ人者尽
矣。自^リ非^ハ下^{ザル}愚^{ニシテ}不^ル可^{カラ}移^ル之才^ニ、未^ダ有^ラ不^ル能^ハ赴^ク者^二也。然^リ而^{シテ}不^レ下^下謀^ル之^ニ以^テ至^至
誠^誠惻^{そく}怛^{だつ}之心^ヲ力^力行^{シテ}而^而先^{ンゼ}之^ニ、未^ダ有^ラ能^ク以^テ至^至誠^誠惻^{そく}怛^{だつ}之心^ヲ力^力行^{シテ}而^而応^ズ之^ニ
者^上也。故^ニ曰^{ハク}、不^{シテ}患^ヘ二^二人^一之不^ル能^ハ而^而患^フ己^中之不^ル勉^メ。

（『新刻臨川王介甫先生文集』による）

〔注〕 ○先王——古代の帝王。

○下愚不^レ可^レ移之才——『論語』陽貨篇に「上知と下愚とは移らず（きわめて賢明な者ときわめて愚かな者は、何によつても変わらない）」とあるのにもとづく。

○惻怛——あわれむ、同情する。

設問

(一) 傍線部 a・b・c の意味を現代語で記せ。

(二) 「孰肯舍其所願得而不_二自勉以為_レ才」(傍線部 d) とは、誰がどうするはずだということか、わかりやすく説明せよ。

(三) 「所_レ以待_レ人者尽矣」(傍線部 e) を平易な現代語に訳せ。

(四) 「不_下謀_レ之以_二至誠惻怛之心_一力行而先_レ之、未_下有_下能以_二至誠惻怛之心_一力行而応_レ之者_上也」(傍線部 f) とは、誰がどうすべきだということか、わかりやすく説明せよ。

第三問

(二〇一七年・文理共通)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。

齊奄家畜^ニ一猫^ヲ。自^ラ奇^シ之^ヲ、号^{シテ}於^ニ人^ニ曰^フ「虎猫^ト。客説^{トキテ}之^ニ曰^{ハク}、「虎誠^ニ猛^{ナルモ}、

不^ル如^カ龍之神^{ナルニ}也。請^フ更^ヘ名^ヲ曰^ニ「龍猫^ト」。又客説^{キテ}之^ニ曰^{ハク}、「龍固^{ハもとヨリ}神^ニ於^ニ

虎^ニ也。龍昇^{ルニ}天^ニ。須^ニ浮雲^ニ。雲其尚^キ於^ニ龍^{ヨリ}乎。不^ト如^カ名^{ツケテ}曰^{フニ}「雲^ト」。又客説^{キテ}之^ニ

曰^{ハク}、「雲靄蔽^{あいおほフモ}天^ヲ。風倏^{たちまちニシテ}散^ズ之^ヲ。雲固^{ヨリ}不^ル敵^{かなハ}風也。請^フ更^ヘ名^ヲ曰^ニ「風^ト」。

又客説^{キテ}之^ニ曰^{ハク}、「大風颿^{へう}起^{キスルモ}。維屏^{ただふせグニ}以^{テセバ}牆^{しやうヲ}。斯足蔽^{すなはチレリフニ}矣。風其如^レ牆何^{セン}。

名^{ヅケテ}之^ニ曰^{ハバ}「牆猫^ト可^{ナリト}」。又客説^{キテ}之^ニ曰^{ハク}、「維牆雖^モ固^{ナリト}、維鼠穴^{うがタバ}之^ニ牆斯圯^{チクブル}矣。

牆^エ又^ニ如^レ鼠何^{セン}。即^チ名^{ツケテ}曰^{ハバ}「鼠猫^ト可^{ナリト}也」。

東里丈人嗤^{わらヒテ}之曰^{ヲハク}、「噫^あ嘻^あ、捕鼠^{フル}者故^{もとヨリ}猫也^ハ。猫^ハ即^チ猫耳^{ナル}。胡^ソ為^ラ自^ラ失^{ハシ}本^ヲ真^ト哉^ト」。

(劉元卿『賢奕編』による)

設問

- 〔注〕 ○齊奄——人名。 ○靄——もや。 ○颯起——風が猛威をふるうこと。 ○圮——くずれること。 ○東里——地名。 ○丈人——老人の尊称。 ○嗤——嘲笑すること。 ○牆——塙。
- (一) 傍線部 a・b・c を現代語訳せよ。
- (二) 「名^レ之曰^二牆猫^一可^レ」(傍線部 d) と客が言ったのはなぜか、簡潔に説明せよ。
- (三) 「牆又^レ如^レ鼠何^一」(傍線部 e) を平易な現代語に訳せ。
- (四) 「東里丈人」(傍線部 f) の主張をわかりやすく説明せよ。

第三問

(二〇一六年・文理共通)

先頭に戻る

次の詩は、北宋の蘇軾（一〇三七～一一〇一）が朝廷を誹謗した罪で黄州（湖北省）に流されていた時期に作ったものである。これを読んで、後の設問に答えよ。

寓居定恵院之東、雜花滿山、有海棠一株、土人不知貴也

江城地瘴蕃草木、只有名花苦幽独

嫣然一笑竹籬間、桃李漫山總粗俗

也知造物有深意、故遣佳人在空谷

自然富貴出天姿、不待金盤薦華屋

朱唇得酒暈生臉、翠袖卷紗紅映肉

林深霧暗曉光遲、日暖風輕春睡足

雨中有^リ涙亦^タ悽慘

月下無^ク人更^ニ清淑

先生食飽^{キテ}無^シ一事^一

散步逍遙^{せう}自捫^{ナツ}腹^ヲ

不^レ問^ハ三人家^ト与^{トラ}僧舍^一

拄^{ツキ}杖^ヲ敲^{たた}門^ヲ看^ル修竹^ヲ

忽^チ逢^ヒ絶艷^{えん}照^{ラス}二衰朽^一

嘆息無言^{ぬぐフ}措^二病目^一

陋^ろ邦何^{いづレノ}処^ニ得^{タル}此花^ヲ

無^む乃^ろ好事^{かう}移^{セル}二西蜀^一

寸根千里不^レ易^{カラ}致^シ

銜^{ふく}子飛^{ミテ}来^{セル}定鴻鵠^{こう}

天涯流落俱^ニ可^シ念^{おもフ}

為^{ため}飲^ミ一樽^{そん}歌^フ此曲^ヲ

明朝酒醒還^{サメテ}独^リ来^{ラバ}

雪落紛紛^{チテ}那^ゾ忍^{ビン}触^ル

〔注〕 ○定惠院——黄州にあった寺。

○海棠——バラ科の木。春に濃淡のある紅色の花を咲かせる。

○土人——土地の人。

○江城——黄州が長江に面した町であることを言う。

○瘴——湿気が多いこと。

○嫣然——にっこりするさま。

○華屋——きらびやかな宮殿。

○紗——薄絹。

○西蜀——現在の四川省。海棠の原産地とされていた。

○鴻鵠——大きな渡り鳥。

○紛紛——乱れ落ちるさま。

設問

- (一) 傍線部 a・c・f を現代語訳せよ。
- (二) 「朱唇得_レ酒暈生_レ臉」(傍線部 b) とあるが、何をどのように表現したものか、説明せよ。
- (三) 「陋邦何処得_レ此花_二」(傍線部 d) について、作者はどのような考えに至ったか、説明せよ。
- (四) 「為_二飲_一樽_二歌_一此曲_二」(傍線部 e) とあるが、なぜそうするのか、説明せよ。

第三問

(二〇一五年・文理共通)

先頭に戻る

次の文章は、清代の文人書画家、高鳳翰（一六八三～一七四九）についての逸話である。これを読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合で訓点を省いたところがある。

高西園嘗夢一客来謁、名刺為司馬相如。驚怪而寤、莫悟何祥。越数日、無意得司馬相如一玉印。古沢斑駁、篆法精妙、真昆吾刀刻也。恒佩之、不去身、非至親昵者、**b**能一見。官塩場時、德州盧丈為兩淮運使、聞有是印、燕見時、偶索觀之。西園離席半跪、正色啓曰、「鳳翰一生結客、所有皆可下与朋友共、其不可共者、惟二物、此印及山妻也」。盧丈笑遣之曰、誰奪爾物者、何痴乃爾耶」。

西園画品絶高、晚得^ニ末疾^ヲ、右臂偏枯^{スルモ}、乃^チ以^テ左臂^ヲ揮毫^{ガウス}。雖^モ生硬
倔強^{クツナリト}、乃^チ有^リ別趣^ニ。詩格亦脱灑^{シヤタリ}。雖^モ托^{スト}跡微官^ニ、蹉跎^{サタトシテ}以^テ歿^{ボツス}。在^{リテモ}
近時士大夫間^ニ、猶能^{ホク}追^フ前輩風流^ヲ也。

（『閱微草堂筆記』による）

〔注〕

○高西園——高鳳翰のこと。 ○司馬相如——前漢の文章家（前一七九～前一一七）。

○昆吾刀——昆吾国で作られたという古代の名刀。 ○塩場——製塩場。

○德州盧丈——德州は今の山東省済南の州名。盧丈は人名。

○兩淮運使——兩淮は今の江蘇省北部のこと。運使は官名、ここでは塩運使のこと。

○燕——宴。 ○山妻——自分の妻を謙遜した呼称。 ○末疾——四肢の疾患。

○揮毫——毛筆で文字や画を描くこと。 ○蹉跎——志を得ないこと。

設問

- (一) 「莫_レ悟_二何_一祥_二」(傍線部a)について、その直前に高西園が経験したことを明らかにしてわかりやすく説明せよ。
- (二) 空欄**b**にあてはまる文字を文中から抜き出せ。
- (三) 「其不_レ可_レ共_二者_一」(傍線部c)とあるが、具体的には何を指すか述べよ。
- (四) 「誰奪_二爾_一物_二者_一、何痴_二乃_一爾耶_二」(傍線部d)をわかりやすく現代語訳せよ。
- (五) 「猶能追_二前_一輩風流_二也_一」(傍線部e)を主語を補ってわかりやすく現代語訳せよ。

第三 問

(二〇一四年・文理共通)

先頭に戻る

次の文章は、唐の太宗と長孫皇后についての逸話である。これを読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合で返り点および送り仮名を省いたところがある。

長^{ちやう}楽^{らく}公^{こう}主^{しゆ}将^{しやう}出^{しゅつ}降^{かう}上^{じやう}以^い公^{こう}主^{しゆ}皇^{わう}后^{こう}所^{しよ}生^{せい}特^{とく}愛^{あい}之^し勅^{しやく}有^{いう}司^し資^し
送^{そう}倍^{ばい}於^お永^{えい}嘉^か長^{ちやう}公^{こう}主^{しゆ}。魏^{ゑい}徵^{てい}諫^{けん}曰^い、「昔^{しやく}漢^{かん}明^{めい}帝^{てい}欲^{しやく}封^{ほう}皇^{わう}子^し曰^い、『我^{われ}
子^し豈^{かな}得^え与^よ先^{せん}帝^{てい}子^し比^ひ上^{じやう}』。皆^{みな}令^{しやう}半^{はん}楚^そ・淮^{わい}陽^{やう}。今^{いま}資^し送^{そう}公^{こう}主^{しゆ}倍^{ばい}於^お長^{ちやう}
主^{しゆ}得^え無^な異^い於^お明^{めい}帝^{てい}之^し意^い乎^や。上^{じやう}然^{ぜん}其^{その}言^{ごん}入^い告^こ皇^{わう}后^{こう}后^{こう}嘆^{たん}曰^い、
「妾^{しやう}亟^{しつ}聞^{きん}陛^{へい}下^げ称^{しやう}重^{じゆう}魏^{ゑい}徵^{てい}不^な知^し其^{その}故^こ。今^{いま}觀^{くわん}下^げ其^{その}引^{いん}礼^{れい}義^ぎ以^い抑^{おさ}人^{にん}主^{しゆ}之^し
情^{じやう}乃^{すなは}知^し真^{しん}社^{しゃ}稷^{しやく}之^し臣^{しん}也^や。妾^{しやう}与^よ陛^{へい}下^げ結^{けつ}髮^{はつ}為^な夫^そ婦^ふ曲^{きよく}承^{しやう}恩^{おん}礼^{れい}
每^{まい}言^{ごん}必^{かならず}先^{さき}候^{こう}顔^{げん}色^{しき}不^な敢^{かん}輕^{けい}犯^{はん}威^い嚴^{げん}。況^{いは}以^{もつ}人^{にん}臣^{しん}之^し疎^そ遠^{えん}乃^{すなは}能^よ抗^{かう}

言^{スルコト}如^シ是^{クノ}。陛下不^ト可^{カラ}不^ル從^ハ。因^{リテ}請^フ遣^{シテ}中使^ヲ一^{モたらシテ}齎^ニ錢^ヲ絹^ヲ以^テ賜^{フヲ}徵^ニ。

上嘗^テ罷朝^{ヨリ}、怒^{リテ}曰^ク、「会^{かならず}須^{ラク}殺^ス此^ノ田舍翁^ヲ」^d。后問^フ為^レ誰^ト。上曰^ク、「魏徵每

廷辱^{はづかしムト}我^ヲ」。后退^{キテ}、具^{ヘテ}朝服^ヲ立^ツ于庭^ニ。上驚^{キテ}問^フ其故^ヲ。后曰^ク、「妾聞^{クナラク}主明^{ナレバ}

臣直^{ナリト}。今魏徵直^{ナルハ}、由^ル陛下之明^{ナルニ}故^也。妾敢不賀^也」。上乃悦^ブ。

(『資治通鑑』による)

〔注〕

○長樂公主——太宗李世民（在位六二六～六四九）の娘。

○出降——降嫁すること。

○有司——官吏、役人。

○資送——送別のとき金銭や財貨を与えること。

○永嘉長公主——高祖李淵（在位六一八～六二六）の娘。

○魏徵——唐初の政治家（五八〇～六四三）。

○楚・淮陽——楚王劉英と淮陽王劉延のこと。いずれも後漢の光武帝の子、明帝の異母兄弟。

○結髮——結婚すること。

○中使——天子が派遣した使者。

○朝服——儀式の際に身につける礼服。

設問

- (一) 「得_レ無_レ異_二於明帝之意_一乎」(傍線部a)を、明帝の意が明らかになるように平易な現代語に訳せ。
- (二) 「今觀_下其引_二礼義_一以抑_中人主之情_上、乃知_二真社稷之臣_一也」(傍線部b)を平易な現代語に訳せ。
- (三) 「況以_二人臣之疎遠_一、乃能抗言如_レ是」(傍線部c)を平易な現代語に訳せ。
- (四) 太宗が怒って「会須_レ殺_二此田舍翁_一」(傍線部d)と言ったのはなぜか、簡潔に説明せよ。
- (五) 長孫皇后はどのようなことについて「妾敢不賀」(傍線部e)と言ったのか、簡潔に説明せよ。

第三 問

(二〇一三年・文理共通)

先頭に戻る

次の文章を読んで後の設問に答えよ。ただし、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。

温達、高句麗平岡王時人也。破衫弊履、往来於市井間。時人目之為愚温達。平岡王少女兒好啼。王戲曰、「汝常啼。聒我耳。当归之愚温達」。王每言之。及女年二八、王欲下嫁於高氏。公主对曰、「大王常語汝必為温達之婦。今何故改前言乎。匹夫猶不欲食言、況至尊乎。故曰『王者無戲言』。今大王之命謬矣。妾不敢祇承」。王怒曰、「宜從汝所適矣」。於是公主出宮独行、至温達之家。見盲老母、拜問其子所在。老母对曰、「惟我息不忍飢、取榆皮於山林。久而未還」。公主出行至山下、見下温達負榆

皮^ヲ而^ニ来^ル上^上。公主^ニ与^レ之^ヲ言^フ懷^ヲ。温達^ニ悖^{ボツ}然^{トシテ}曰^ク、「此^ニ非^ズ幼^ニ女子^ノ所^ニ宜^ク行^フ必^ズ非^{ザル}人^ニ也^ト」。遂^ニ行^{キテ}不^レ顧^ミ。公主^ニ明^ニ朝^ニ更^ニ入^リ与^ニ母^子備^ツ言^フ之^ヲ。温達^ニ依^{シテ}違^{シテ}未^ダ決^セ其^ノ母^ノ曰^ク「吾^ニ息^至陋^ニ不^レ足^為貴^ニ人^匹。吾^ガ家^至窶^{ツテ}固^{ヨリ}不^レ宜^{シカラ}貴^ニ人^ノ居^ニ」。公主^ニ对^{ヘテ}曰^ク「古^ノ人^言『一^ノ斗^ノ粟^ノ猶^ホ可^ク舂^ツ一^ノ尺^ノ布^ノ猶^ホ可^{シト}縫^フ』則^チ苟^{クモ}為^{レバ}同^ニ心^一何^ゾ必^{ズシモ}富^ニ貴^ニ然^ル後^ニ可^{ケン}共^{ニス}乎^ト」。乃^チ壳^{リテ}金^一釧^{せん}買^得田^ス宅^一牛^一馬^一器^ヲ物^一。

(『三國史記』による)

〔注〕 ○温達——？五九〇年。後に高句麗の將軍となる。

○平岡王——別名、平原王。高句麗第二十五代の王。在位は五五九～五九〇年。 ○破衫——破れた上着。

○公主——王の娘。 ○榆皮——ニレの樹皮。 ○悖然——怒って急に顔色を変えるさま。

○依違——ぐずぐずすること。 ○一斗粟猶可舂、一尺布猶可縫——出典は『史記』淮南衡山列伝。

○釧——うでわ。

設問

- (一) 「匹夫猶不_レ欲_二食_一言、況至尊乎」(傍線部a)を平易な現代語に訳せ。
- (二) 「宜_レ從_二汝所_一適矣」(傍線部b)とはどういうことか、簡潔に説明せよ。
- (三) 「公主与_レ之言懷」(傍線部c)とはどういうことか、具体的に説明せよ。
- (四) 「吾息至陋、不足_レ為_二貴人_一匹」(傍線部d)を平易な現代語に訳せ。
- (五) 「苟為_二同心_一、何必富貴然後可_レ共乎」(傍線部e)とはどういうことか、わかりやすく説明せよ。

第三 問

(二〇一二年・文理共通)

先頭に戻る

次の文章は、斉の君主景公と、それに仕えた晏嬰との対話である。これを読んで後の設問に答えよ。

公曰、「唯拋与我和夫」。晏子对曰、「拋亦同也。焉得^{クンゾ}為^{ンヤト}和^{スラト}」。公曰、「和与同異乎^{ナルカト}」。对曰、「異^{ナリ}。和^ハ如^シ羹^{かうノ}焉。水火醯^{けい}醢^{かい}塩梅以^テ烹^{ニテ}魚肉^ヲ、燔^{たクニ}之^ヲ以^テ薪^ヲ。宰夫和^シ之^ヲ、齐^{ととのフルニ}之^ヲ以^テ味^ヲ、濟^{ましテ}其^ノ不^ル及^バ、以^テ洩^{ヘラス}其^ノ過^{グルヲ}。君子食^{ラヒテ}之^ヲ、以^テ平^{ラカニス}其^ノ心^ヲ。君臣亦然^リ。君所^{ニシテ}謂^フ可^ト而有^{ラバ}否^ヲ、臣献^{ジテ}其^ノ否^ヲ。以^テ成^ス其^ノ可^ヲ。君所^{ニシテ}謂^フ否^ト而有^{ラバ}可^ヲ焉、臣献^{ジテ}其^ノ可^ヲ。以^テ去^ル其^ノ否^ヲ。是以^テ政^{ラカニシテ}平^{ニシテ}而不^レ干^{をかサ}、民無^シ争^フ心^ヲ。先王之濟^{ととのヘ}五味^ヲ、和^{スルヤ}二五^ヲ声^ヲ也、以^テ平^{ラカニシテ}其^ノ心^ヲ。成^ス其^ノ政^ヲ也。声亦如^シ味^ヲ。君子聽^キ之^ヲ、以^テ平^{ラカニス}其^ノ心^ヲ。今拋不^レ然^ヲ。君所^ハ

謂^フ可^ト、^d 扱^モ亦^ヒ曰^レ可^ト、君^ノ所^ハ謂^フ否^ト、^c 扱^モ亦^フ曰^レ否^ト。若^シ以^テ水^ヲ濟^{マス}水^ヲ。誰^カ能^ク食^ラ之^ハ。

若^シ琴^{キン}瑟^{シツ}之^ノ專^{ナル}一^カ。誰^カ能^ク聽^{カン}之^ヲ。同^ニ之^ノ不^レ可^{ナラ}也^{ナラ}。如^シ是^{クノ}」。

（『春秋左氏伝』昭公二十年による）

〔注〕 ○扱^{りよう}——梁丘扱。景公に仕えた。 ○羹——あつもの。具の多い吸い物。

○醯醢^{しつ}——酢・塩辛・塩・梅などの調味料。 ○宰夫——料理人。 ○猷——提起・進言する。

○不干——道理にそむかない。 ○先王——上古の優れた君主。

○五味——酸・苦・甘・辛・鹹^{かん}（しおからい）の五種の味覚。 ○五声——宮^{きゆう}・商^{しょう}・角^{かく}・徵^ち・羽^うの五種の音階。

○琴瑟之專一——琴と瑟の音色に違いがないこと。

設問

(一) 「済_レ其不及、以洩_レ其過」(傍線部a)とはどういうことか、簡潔に説明せよ。

(二) 「君所_レ謂_レ可而有_レ否焉、臣獻_レ其否、以成_レ其可」(傍線部b)は君臣関係を述べたものである。

(ア) これを、わかりやすく現代語訳せよ。「可」「否」も訳すこと。

(イ) この君臣関係からどのような政治が期待されているか。これについて述べた箇所を文中から抜き出せ。訓点・送り仮名は省いてよい。

(三) 「若_レ以_レ水済_レ水。誰能食_レ之」(傍線部c)をわかりやすく現代語訳せよ。

(四) 「同之不_レ可」(傍線部d)とあるが、晏子は抛のどのような態度をとらえてこう述べているか。簡潔に説明せよ。

第三問

(二〇二一年・文理共通)

先頭に戻る

次の詩は白居易の七言古詩である。これを読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。

放^ツ旅^雁
雁^が雁^ん

元和十年冬^ノ作

九江十年冬大雪^フ

江水^ハ生^ジ氷^ヲ樹^ハ枝^ハ折^ル

百鳥無^ク食^シ東西^ニ飛^ビ

中^ニ有^リ旅^雁一^ニ聲^ニ最^モ飢^エ

a 中^ニ啄^ツ草^ヲ
b 上^ニ宿^リ

翅^ハ冷^エ騰^ノ空^ニ飛^ス動^コ遲^シ

江童持^シ網^ヲ捕^ト將^モ去^リ

手携入^レ市^ニ生^シ売^レ之^ヲ

我^ハ本^モ北^ニ人^ニ今^ハ譴^{ケン}謫^{タク}

人^ト鳥^ト雖^モ殊^ナ同^ジ是^レ客^ナ

見^ル此^ノ客^ニ鳥^ヲ傷^マ客^ニ人^ヲ

e 贖^ア汝^ヲ放^チ汝^ヲ飛^ビ入^ラ雲^ニ

雁^ヨ雁^ヨ汝^ハ飛^ビ向^カ何^ニ処^ニ

第一^ニ莫^カ飛^ビ西^ニ北^ニ去^ル

淮^{わい}西^ニ有^レ賊^ツ討^モ未^ダ平^{ラカナラ}

百^フ万^フ甲^フ兵^フ久^{シク}屯^{とん}聚^{しゅス}

官^ト軍^ト賊^ト軍^ト相^ヒ守^{リテ}老^{つかレ}

食^キ尽^キ兵^{マリテ}窮^ニ将^レ及^{バント}汝^ニ

健^ハ児^ハ飢^{シテ}餓^{シテ}射^テ汝^ヲ喫^{くらヒ}

拔^{キテ}汝^ヲ翅^し翎^{れいヲ}為^{サン}箭^{せん}羽^ト

〔注〕 ○元和十年——西暦八一五年。この年、白居易は江州司馬の職に左遷された。

○九江——江州のこと。今の江西省九江市。 ○江童——川べりの土地に住む子ども。

○譴謫——罪をとがめて左遷すること。 ○第一——禁止の意を強める語。決して。

○淮西——今の河南省南部。淮河の上流域。 ○賊——国家に反逆する者。

○兵窮——兵器が底をつくこと。 ○健儿——兵士。 ○箭羽——矢につける羽。

設問

(一) 空欄 a と空欄 b にあてはまる文字を、第一句から第四句の中から選んで記せ。なお「a 中啄_レ草 b 上宿」の句は、「花有_レ清香 月有_レ陰」の句のように、前四字と後三字が対応関係にある。

(二) 「生売_レ之」(傍線部 c) を、「之」が指すものを明らかにして、平易な現代語に訳せ。

(三) 「同是客」(傍線部 d) とは作者のどのような心情を表しているか、わかりやすく説明せよ。

(四) 「贖_レ汝放_レ汝飛入_レ雲」(傍線部 e) とはどういうことか、簡潔に説明せよ。

(五) 「将_レ及_レ汝」(傍線部 f) とはどういうことか、具体的に説明せよ。

第三問

(二〇一〇年・文理共通)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。

一巨商姓段者、蓄一鸚鵡甚慧。能誦李白宮詞、每客至則呼茶、問客人安否寒暄。主人惜之、加意籠養。一旦段生以事繫獄。半年方釈到家、就籠与語曰、「鸚哥、我自獄中半年不能出、日夕惟只憶汝。家人餒飮、無失時否」。鸚哥語曰、「汝在禁数月不堪、不異鸚哥籠閉。歲久」。其商大感泣、乃特具車馬携至秦隴、揭籠泣放。其鸚哥整羽徘徊、似不忍去。後聞止巢於官道隴樹之末、凡吳商驅車入秦者、鳴於巢外曰、「客還見我段二郎安否。若見時、為我道鸚哥甚憶二郎」。

(『玉壺清話』による)

〔注〕 ○宮詞——宮女の愁いをうたう詩。 ○安否寒暄——日常の様子や天候の寒暖。 ○參——えさ餌。

○段生——生は男性の姓につける呼称。 ○鸚哥——鸚鵡。 ○餒——ゑ餌をやること。 ○禁——監獄。

○秦隴——秦も隴も中国西部の地名。現在の陝西省および甘肅省周辺。 ○隴樹——丘の上の木。この隴は丘の意。

○吳——中国東南部の地名。現在の江蘇省周辺。段という姓の商人はこの地方に住んでいた。

○段二郎——二郎は排行（兄弟および従兄弟いとこ）の中での長幼の序）にもとづいた呼称。

設問

(一) 「主人惜_レ之、加_三意籠_二參_一」(傍線部a)とはどういうことか。わかりやすく説明せよ。

(二) 「家人餒_レ飲、無_レ失_レ時否」(傍線部b)を、平易な現代語に訳せ。

(三) 「其商大感泣」(傍線部c)とあるが、なぜか。わかりやすく説明せよ。

(四) 「若見時」(傍線部d)とは、誰だれが誰に会う時か。具体的に説明せよ。

(五) 「為_レ我道_三鸚哥甚憶_二二郎_一」(傍線部e)を、平易な現代語に訳せ。

第三 問

(二〇〇九年・文理共通)

先頭に戻る

次の文章は、室町時代の禅僧、万里集九ばんりしゅうくが作った七言絶句と自作の説明文である。これを読んであとの問いに答えよ。

宋そう之神しん廟べう謂ヒテ趙てう鉄面ニ曰ク、「卿けい入リタルトキ蜀しよく、以ニ一琴一亀ヲ自随ヲ、為スコト政ヲ

簡易也ト。一日余友人、袖しうシテ小画軸ヲ来リ、見ラル需ニ賛語ヲ。不知ラ為ルカラ何ノ図ニ。

掛クルコト壁間ニ逾コエ月ヲ、坐臥質焉ニただス。梅ハ則チ花中御史、表ス趙抃べん之為ルヲ鉄面御

史ニ。屋頭長松之屈蟠げんシテ、而有ル大雅風声者ハ、豈ニ非ズ一張琴邪ニ。一亀モ亦タ

浮遊ス水上ニ。神廟之片言、頗ル与ト絵事合符ス。名なづケテ之曰ヘバ「趙抃一亀

図ト、則チ可ナラン乎。

莫^レ怪^ム床頭^ニ不^ル置^カ置^ラ d 長松毎日送^ル遺音^一
 主人^ノ鉄面^ニ有^リ何^ノ樂^シ 唯^ダ使^ム一^ニ龜^ヲ知^ラ此^ノ心^一

(『梅花無尽蔵』)

〔注〕○神廟——北宋の神宗皇帝（在位一〇六七―一〇八五）。○趙鉄面——趙抃が剛直だったためについたあだ名。

○蜀——地名。今の四川省のあたり。○余——筆者である万里集九。○賛語——画面に書きそえる詩やことば。

○御史——官僚の不正行為を糾^{ただ}す官職。○屈蟠——くねくねと曲がる。

○張——弓・琴など弦を張った物を数えることば。○遺音——音が消えたあとで残る響き。

設問

(一) 「掛壁間^ニ逾^レ月、坐臥質^レ焉」(傍線部a)とあるが、なぜそうしたのか、説明せよ。

(二) 「豈非^ニ一^ニ張^ニ琴^ニ邪」(傍線部b)をわかりやすく現代語訳せよ。

(三) 「神廟之片言、頗与^ニ絵事^ニ合^レ符」(傍線部c)とあるが、ここで「絵^ノ事」が指しているものを文中から抜き出して三つあげよ。

(四) 空欄 d にあてはまる文字を、文中から抜き出せ。

(五) 「此心」(傍線部e)とは誰^{だれ}のどのような心か。この詩の趣旨をふまえて簡潔に説明せよ。

第三 問

(二〇〇八年・文理共通)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

周鉄厓屢試^二秋闈^一不^レ售^一。一日自^二他処^一歸^リ、夜泊^二船村落^一間^一。望^三見^二臨^二水^一一家^一、樓窓外有^二碧火^一如^レ環^一。舟人見^テ而駭^ニ曰^ク、「縊^二鬼^一求^レ代^一、多^ク作^二此^一状^一。此家必有^下將^ニ縊^ニ死^一者^上。慎^ニ勿^一聲^一、鬼為^レ人所^レ覺^ル、且^ニ移^ニ禍^一於^二人^一。」周奮然^{トシテ}曰^ク、「見^テ人死^一而^レ不^レ救^ハ、非^{ザル}夫也^ト。」登^リ岸、叩^{キテ}門大呼^ス。其家出^デ問^ヒ、告^{グル}以^レ故^一、大驚^{イニ}。蓋^シ姑婦方勃谿^{けいし}、婦泣^{シテ}涕登^ル樓。聞^キ周言^ヲ亟^{すみやかに}共^ニ登^リ樓、排^{ヒラキテ}闥^ヲ而^ル入^ル、婦手持^{チテ}帶立^チ牀前^ニ、神已痴^{タリ}矣。呼^{フコト}之^ヲ踰^フ時^ニ始^{メテ}覺^メ、拳^ニ家共^ニ勸^{スレバ}慰^ヲ之^ヲ、乃^チ已^ム。周次日抵^{いたル}家^ニ。夢^ニ一老人謂^{ヒテ}之^ニ曰^ク、

「子^{ナリ}勇^ニ於^{スニ}為^レ善^ヲ、宜^{シク}食^{ウク}其^ノ報^ヲ。」周^{シト}曰、「他^ハ不^{ヘテ}敢^マ望^マ、敢^{ヘテ}問^フ我^ニ於^{イテ}科^ニ名^ニ何^ト如[。]」
老人笑^{ヒテ}而^{スニ}示^{テス}以^レ掌^ヲ。掌^ニ中^リ有^ニ「何^d可[。]成[。]」三[。]字[。]。寤^{めざメテ}而^{ジテ}歎^ク曰、「科^ニ名^ニ
無^カラント望[。]矣。」其^ノ明[。]年[。]、竟^ニ登^ル賢^ニ書[。]。是^ノ科[。]主[。]試[。]者^ハ為^{タレバ}何^ニ公[。]始^{メテ}悟^ル夢[。]語[。]
之[。]巧[。]合[。]也[。]」

(兪樾『右台仙館筆記』による)

〔注〕

○秋闈——秋に各省で行われる科挙。 ○求^レ代——亡魂が冥界から人間界へ戻るため、交代する者を求める。

○姑婦——しゅうとめと嫁。 ○勃谿——けんか。 ○——小門。 ○踰時——ほどなくして。

○科名——科挙に合格すること。 ○登^ニ賢^ニ書[。]——秋闈に合格する。 ○主試者——試験の総責任者。

○何公——「何」という姓の人物に対する敬称。

設問

- (一) 「慎勿_レ声」(傍線部a)とあるが、なぜか、わかりやすく説明せよ。
- (二) 「大驚」(傍線部b)とあるが、なぜか、わかりやすく説明せよ。
- (三) 「挙家共勸_レ慰之、乃已」(傍線部c)を、必要な言葉を補って、平易な現代語に訳せ。
- (四) 「何可成」(傍線部d)を、周鉄厓の最初の解釈に沿って、平仮名のみで書き下せ。
- (五) 「始悟_レ夢語之巧合」(傍線部e)とあるが、どういうことか、具体的に説明せよ。

(二〇〇七年・文理共通)

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

（『輟耕録』による）

- 〔注〕 ○鑊——かんざし。 ○爓肉——小さく切った肉。 ○肅客——客を家の中へ迎え入れる。
○執作——家事の雑用をする。 ○匠者——大工。 ○瓦瓴——かわら。 ○垢——ちり。

設問

- (一) 「方_下与_レ妻対飯、妻以_二小金鑊_一刺_二爓肉_一、将_レ入口、門外有_二客至_一」(傍線部a)を、平易な現代語に訳せ。
- (二) 「意_二其窃取_一」(傍線部b)とあるが、誰がどのようなことを思ったのか、具体的に説明せよ。
- (三) 「原_二其所以_一、必是猫来偷_レ肉、故帶而去」(傍線部c)を、「其」の内容を補って、平易な現代語に訳せ。
- (四) 空欄dにあてはまる「含_レ冤以死」の主語を、本文中より抜き出して記せ。
- (五) 筆者がこの文章を記した意図をわかりやすく説明せよ。

第三問

(二〇〇六年・文理共通)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。

余友劉伯時、嘗見淮西士人楊勛。自言中年得異疾、每發言、
答腹中輒有a二小聲効之。數年間、其聲浸大。有道士見而驚曰、
「此b一應声虫也。久不治、延及妻子。宜讀本草。遇虫所不b一應者、
取服之。」c如言。讀至雷丸、虫忽無声。乃頓餌數粒、遂愈。余始
未以為信。其後至長汀、遇一丐者、亦有是疾。環而觀者甚衆。因
教之使服雷丸。丐者謝曰、「某貧無他技。所以求衣食於人者、
唯借此耳。」

(『続墨客揮犀』による)

〔注〕 ○淮西——淮水の西方。いまの河南省南部。 ○本草——薬剤の名称・効能などを記した書物。

○長汀——いまの福建省長汀県。 ○丐者——ものこい。

設問

(一) 「毎_レ発言_二応答_一、腹中輒有_二小聲_レ効_レ之_一」(傍線部a)を、平易な現代語に訳せ。

(二) 「宜_レ読_二本草_一。遇_二虫所不_レ応者_一当_二取服_レ之_一」(傍線部b)とは、どういうことを言っているのか、わかりやすく説明せよ。

(三) 空欄cにあてはまる、「如_レ言」の主語を、文中から抜き出せ。

(四) 「環而觀者甚衆」(傍線部d)とは、どのような様子か、そうなったわけも含めて、具体的に説明せよ。

(五) 「丐者謝」(傍線部e)とあるが、「丐者」はなぜ「謝」したのか、「謝」の意味を明らかにして、わかりやすく説明せよ。

第三 問

(二〇〇五年・文科)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。

「好^ム名^ヲ之人、能^ク讓^ル千乘之^ノ国、苟^{クモ}非^レ其^ノ人、簞^{たん}食^し豆羹^{とうかう}見^ル於^ニ色^ニ。」此^レ真^ニ孟子^ノ通^{スル}達^{スル}世^ニ故^ニ語^ニ也。余^ハ嘗^テ見^ル下^ニ慷慨^{がい}之士^ノ揮^{シテ}斥^{シテ}千金^ヲ毫^モ不^ル吝^{せき}惜^ニ於^ニ一^ニ二^ニ金^ノ出^ス納^ニ、或^{イハ}不^レ免^レ斷^{ぎん}斷^{ぎん}者^ヲ上^ニ、事^{グル}過^ニ之^ノ後^ニ、在^{リテ}己^ニ未^ダ嘗^テ不^ニ失^セ笑^ニ也。五^ご茸^{じよう}葉^ハ桐^{トウ}山^{サン}為^{タリ}河^カ間^{カン}通^{ツウ}判^{パン}、治^ち餉^{しやう}宣^{せん}府^ふ。当^{タリ}更^カ代^{ダイ}日^ニ、積^し資^し余^ス三^{さん}千^{せん}金^ニ。桐^{トウ}山^{サン}悉^{ことごとく}置^{キテ}不^レ問^ハ。主^{しゆ}者^ヲ遣^メ一^{いち}吏^し持^{シテ}至^{シテ}中^{ちゆう}途^と、以^テ成^{じやう}例^{れい}。請^フ桐^{トウ}山^{サン}曰^ク、「不^ル受^ケ羨^{けん}、即^チ吾^ガ例^{れい}也。」命^{ジテ}歸^ル之^ニ。晚^{ばん}居^ル春^{しん}申^{しん}故^こ里^に、饘^{せん}粥^{じゆく}不^レ繼^ガ。一^{いち}日^ニ梅^{ばい}雨^う中^{ちゆう}、童^{どう}子^し張^{リテ}網^{わう}失^ス一^{いち}大^{だい}魚^{ぎよ}。桐^{トウ}山^{サン}為^{タメニ}呀^や嘆^{たん}。其^ノ妻^{さい}聞^{キテ}之^ヲ曰^ク、「三^{さん}千^{せん}金^{スラ}却^レ之^ニ、一^{いち}魚^{ぎよ}能^ク值^{ヒセント}幾^ニ何^ニ。」桐^{トウ}山^モ亦^タ撫^ぶ掌^{しやう}大^{だい}笑^ス。雖^モ然^{リト}、居^{レバ}今^に之^ニ世^ニ、桐^{トウ}山^{ケン}可^レ

不_レ謂_ハ賢_ト乎。

（『庸間齋筆記』による）

〔注〕○千乗之国——兵車千台を出すことのできる国。大国のこと。○簞食豆羹——竹の器に盛った飯と木の器に容れた汁。わずかな食物のこと。○斷斷——言い争うさま。○五茸——地名。今の上海市松江付近。○葉桐山——人名。○河間——地名。河間府のこと。今の河北省河間県。○通判——府の副長官。○治餉——軍用の資金や物資を管轄すること。○宣府——地名。北方の軍事拠点であった宣府鎮のこと。今の河北省宣化県。○羨——余剰金。地方官が官費から蓄財したものの。○春申——地名。今の上海市付近。○饘粥——かゆ。

設問

- (一) 「苟非其人、簞食豆羹見於色」（傍線部a）とあるが、どういうことか、わかりやすく説明せよ。
- (二) 「以成例請」（傍線部b）を、「請」の内容がわかるように、平易な現代語に訳せ。
- (三) 「歸之」（傍線部c）および「却之」（傍線部e）について、「之」はそれぞれ何を指すか、文中の語で答えよ。
- (四) 「晚居春申故里、饘粥不繼」（傍線部d）を、「饘粥不繼」がどういうありさまを示すのかがわかるように、平易な現代語に訳せ。
- (五) 「居今之世、桐山可不謂賢乎」（傍線部f）とあるが、なぜそう思ったのか、全文の趣旨をふまえて、説明せよ。

第三 問

(二〇〇五年・理科)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。

君能^ク納^{ルトモ}諫^{かんヲ}、不能^ハ使^{ムル}臣^{ヲシテ}必^ズ諫^{いさメ}、非^ズ真^ニ能^ク納^{ルル}諫^ヲ之^{君ニ}。夫^レ君之大^ハ、天也、其尊^ハ、神也、其威^ハ、雷霆也。人之不能^ハ抗^シ天^ニ、触^レ神^ニ、忤^ニ雷霆^ニ亦明^ラ矣^{カナリ}。

聖人知^ル其然^{ルヲ}、故立^テ賞^ヲ以^テ勸^ム之^ヲ。伝曰^ク、「興王賞^{スト}諫^ニ臣^ヲ」是也。猶^ホ懼^{おそ}其^ル

選^{せん}奕^{ぜん}阿^あ諛^{ゆシテ}使^{ムルヲ}一^モ日^ヲ不得^レ聞^{クラ}其過^ヲ。故制^{シテ}刑^ヲ以^テ威^{おど}之^ヲ。書曰^ク、「臣下不正、

其刑墨。」是也。人之情、非^ズ病^ミ風喪^{うしな}心^ヲ、未^レ有^ニ避^レ**A**而就^レ**B**者^一。

何^ヲ苦^{シンデ}而不^ラ諫^メ哉。賞^ト与^レ刑^ヲ不^レ設^ケ、則^チ人之情、又何^ヲ苦^{シンデ}而抗^シ天^ニ、触^レ神^ニ、忤^ハ

雷霆^ニ哉。自^{リハ}非^{ザル}性^ニ忠^{ニシテ}義^{ニシテ}不^レ悦^バ賞^ヲ不^レ畏^レ罪^ヲ、誰^カ欲^{スル}以^テ言^ヲ博^{セント}死^{アラ}者^一。人君又

安^{ンゾ}能^ク尽^{ことごとク}得^テ性^ニ忠^{ナル}義^ヲ者^一而任^{ゼン}之^ニ。

(『嘉祐集』による)

- 〔注〕 ○雷霆——かみなり。 ○忤——逆らう。 ○伝——『国語』のこと。 ○興王——国を興隆させた王。
○選奕——びくびくと恐れるさま。 ○阿諛——おもねる。 ○書——『書経』のこと。 ○墨——入れ墨。
○病風——精神を病んでいること。

設問

- (一) 「懼_三其選奕阿諛使_二一日不得聞_三其過_二」(傍線部a)とあるが、どういうことか、二つの「其」がそれぞれ何を指すかわかるように、説明せよ。
- (二) 「書曰、『臣下不正、其刑墨。』是也」(傍線部b)を、平易な現代語に訳せ。
- (三) 本文中の空欄A・空欄Bに入る最も適当な一字を、それぞれ文中から抜き出せ。
- (四) 「自_レ非_二性忠義不_レ悦_レ賞不_レ畏_レ罪、誰欲_二以_レ言博_レ死者_一」(傍線部c)を、平易な現代語に訳せ。

第三 問

(二〇〇四年・文科)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

孝宗^ノ時^{スルノ}辞^ニ朝法^ニ甚^ダ嚴^{ニシテ}、雖^モ蜀人^ノ守^{ルト}蜀郡^ノ、不^レ遠^ニ万^リ里^ヲ来^ス見^ス。有^リ三蜀^ノ守^ノ、
当^ニ朝^ス辞^ス、素^{モトヨリ}不^レ能^{ヨクセ}文^ヲ、以^テ為^ス憂^{ヒト}。其^ノ家^ノ素^{ヨリ}事^{ツカフ}梓潼^{トウ}神^{シンニ}、夜^{ユメムルニ}夢^ニ神^ヲ謂^{ヒテ}之^ニ、
曰^ク、「兩^ニ辺^ニ山^ヲ木^ヲ合^シ、終^ニ日^ヲ子^ヲ規^{ナク}啼^{メテ}。」覺^{メテ}莫^シ曉^{サトル}其^ノ故^ヲ。會^{シテ}朝^ニ對^ニ、上^ニ問^フ、「卿^ハ、
從^{ヨリ}峽^ニ中^ニ来^{タル}乎^カ、風^ノ景^ノ如^ト何^ト。」守^チ即^チ以^テ前^ニ兩^ノ語^ヲ對^フ。上^ハ首^ヲ肯^{スルコト}、再^{ナリ}三^ニ翌^ニ日^ニ、
謂^{ヒテ}宰相^ノ趙^ノ雄^ニ曰^ク、「昨^{きのふ}有^リ蜀人^ノ對^{フル}者^ヲ。朕^ハ問^{フニ}峽^ニ中^ノ風^ノ景^ヲ、彼^ハ誦^{シテ}杜^ノ詩^ヲ以^テ對^フ。
三^ニ峽^ノ之^ノ景^ヲ、宛^{あたかも}在^リ二^ニ目^ニ中^ニ。可^キレ謂^フ二^ニ善^ク言^フレ^ニ。詩^ヲ也^ヲ。可^{シト}レ与^フ二^ニ寺^ニ丞^ニ・寺^ニ簿^ニ。」雄^{キテ}退^レ。
朝^ヲ召^{シテ}問^{ヒテ}之^ニ曰^ク、「君^ハ何^ヲ以^テ能^ク爾^{ルト}。」守^ハ不^レ敢^{ヘテ}隱^サ。雄^ハ曰^ク、「吾^ハ固^{ヨリ}疑^{ヘリ}二^ニ君^ノ不^レ能^ハ及^ブレ^ニ。

此。若留^{マレバ}中^ニ上再問^ビ敗^{ヤブレ}矣。不^ト若^カ歸^リ蜀^ニ赴^ク郡^ニ。他日上復問^{フニ}其人^ヲ。
雄對^{ヘテ}曰、「臣嘗^テ以^ニ聖意^ヲ語^ツ之^ニ、彼不^ト願^ハ留^{マル}。」上嘆^{ジテ}曰、「恬退^{テンタイナルコト}乃爾^{チル}、
尤^モ可^シ嘉^{ヨミス}。可^{シト}予^{あたフ}憲節使^ヲ。」

（『西湖遊覽志余』による）

〔注〕 ○孝宗——南宋の皇帝（在位一一六三—一一八九）。○辭^レ朝——地方官が任地に赴任するときに、皇帝に拝謁して辞令を受けること。「朝辭」も同じ。○梓潼神——蜀（今の四川省）を中心に信仰されていた神。○子規——ほととぎす。

○杜詩——杜甫の詩。○三峡——長江上流の峡谷。四川省と湖北省の境に位置する。○寺丞・寺簿——中央政府の役職。
○趙雄——孝宗治世下の宰相。○憲節使——皇帝の命を受けて地方行政の監察をおこなう官職。

設問

- (一) 「君何以能爾」を、「爾」の内容がわかるように、平易な現代語に訳せ。
- (二) 「守不_レ敢隱」にあるが、何を隠さなかったのか。簡潔に述べよ。
- (三) 「不_レ若_二歸蜀赴_レ郡」にあるが、なぜか。その理由をわかりやすく述べよ。
- (四) 「聖意」の内容にあたる部分を文中から抜き出して答えよ。返り点・送り仮名・句読点は省くこと。
- (五) 「尤可_レ嘉」とあるが、孝宗はどのように考えてそう判断したのか。わかりやすく説明せよ。

第三 問

(二〇〇四年・理科)

先頭に戻る

次の文章は、北宋の蘇軾（一〇三六—一一〇一）が書いたものである。これを読んで、後の設問に答えよ。

歐陽文忠公嘗言、「有患疾者。医問其得疾之由。曰、『乘船遇風、驚而得之。』」医取多年柁牙為柁工手汗所漬處刮末、雜丹砂・茯神之流。飲之而癒。」今、『本草注別藥性論』云、止汗、用麻黄根節及故竹扇為末服之。文忠因言、「医以意用藥多此比。」初似兒戲、然或有驗、殆未易致詰也。」予因謂公、「以筆墨燒灰、飲之、學者當治昏惰耶。」推此而廣之、則飲伯夷之盥水、可_二以療貪、舐_二樊噲之盾、可_二以治怯矣。」公遂大笑。

(『東坡志林』による)

〔注〕 ○歐陽文忠公——宋の文人・歐陽脩（一〇〇七—七二）のこと。 ○舵牙——舵は舵のこと。舵牙は舵を操作する際に握る部分。 ○丹砂・茯神・麻黄——いずれも中国医学で用いられる薬剤の名。 ○『本草注別薬性論』——唐の甄権しんけんが著した中国医薬の書。 ○致詰——物事を見極めること。 ○伯夷——周の武王による殷の討伐を道徳に反するとして、周の食べ物を口にせず、餓死したといわれる人物。 ○盥水——手を洗った水。 ○樊噲——項羽が劉邦の暗殺を謀った鴻門の会で、劉邦の命を救った武將。

設問

- (一) 「医以意用薬」とあるが、
 - (ア) これはどういうことか。わかりやすく説明せよ。
 - (イ) 文中に挙げられている「医以意用薬」の例から一つを選び、簡潔に要約して述べよ。
- (二) 「初似『兒戲』、然或有驗、殆未易致詰也」を、何を「致詰」するかを明らかにして、平易な現代語に訳せ。
- (三) 「公遂大笑」とあるが、「公」はなぜ「大笑」したのか。全文の趣旨をふまえて、簡潔に述べよ。

第三 問

(二〇〇三年・文科)

先頭に戻る

次の文章は、ある地方（亜徳那）の名士（責煖氏）に関するエピソードである。これを読んで、後の設問に答えよ。

敝郷之東、有^ニ大都邑、名^ハ曰^フ亜徳那^{トクダナ}。其^ノ在^ニ昔時^ニ、興^シ学^ヲ勸^メ教^ヲ、人文

甚^ダ盛^{ンナリ}。責煖^{サクダン}氏^ハ者、当時大学之領袖也。其^ノ人有^リ徳有^リ文。偶^{タマタマ}四方^ノ使

者、因^{リテ}事^ニ来^ル廷^ニ。国王知^リ使^者賢^{ナルヲ}、甚^ダ敬^ヒ之^ヲ、則^チ大^{イニ}饗^{モテナス}之^ヲ。是^ノ日^ニ所^{ズル}談、莫^シ

非^{ザル}高^ニ論^ニ。如^ク雲^ノ如^ク雨^ノ、各^{タク}逞^{マシウス}才^ヲ智^ヲ。独^リ責煖^{サクダン}終^ニ席^ニ不^レ言^ハ。将^ニ徹^ヲ、使^{ヒテ}問^ニ之^ニ

曰^ク、「吾^ガ儕^{ともがら}歸^{リテ}復^ス命^ヲ乎寡君^ニ、謂^{フコト}子^ヲ如何^ト。」曰^ク、「無^シ他^ニ、惟^{ただ}曰^{ヘト}下^ニ亜徳那^ニ有^{リテ}

老者^ハ、於^テ大饗時^ニ能^ク無^{シト}言^{フコト}也^ト。」祇^{ただ}此^ノ一語^ヲ、蘊^{ふくム}三^ヲ奇^ヲ矣。老者^ハ四体衰

劣^{ニシテ}、独^リ舌^{いよいよ}弥^{ナリ}強^{ナリ}毅^{ナリ}、当^ニ好^ム言^ヲ也。酒^ノ於^{ケル}言^ニ、如^シ薪^ノ於^{ケル}火^ニ、即^{たとヒ}訥^{トイヘドモ}者^ニ於^レ是^ニ中^{シテ}變^{シテ}而^{かまびすシ}曄^也。亞^ハ德^ノ那^ハ彼^ノ時^ノ賢^{者ノ}所^{ツル}出^{ツル}、佞^{者ノ}所^{ナレバ}出^{ツル}、則^チ售^{ウル}言^ヲ大^ニ市^也也。
 有^{ルモ}三^ノ一^ノ、難^シ禁^ジ言^ヲ、矧^{いはンヤ}三^{ヌルヲヤ}兼^レ之^ヲ乎。故^ニ史^ハ氏^ハ不^{シテ}誌^サ諸^ニ偉^{人ノ}高^{論ノ}也。
 而^ニ特^ス誌^ス責^ス煖^{氏ノ}之^{ルヲ}不^レ言^ハ也。

(『畸人十篇』による)

設問

- (一) 「是日所談、莫非^ニ高論。如雲如雨、各逞^ニ才智。独責煖終席不^レ言」を平易な現代語に訳せ。
- (二) 「無^レ他、惟曰^下亜德那有^ニ老者、於^ニ大饗時^ニ能無^レ言也」を平易な現代語に訳せ。
- (三) 「祇此一語、蘊^ニ三奇^一矣」にあるが、
 - (ア) これを平易な現代語に訳せ。
 - (イ) 「三奇」とはどういうことか、それぞれ簡潔に述べよ。
- (四) 「有^ニ三^ノ一^ノ、難^シ禁^ジ言^ヲ、矧^{いはンヤ}三^{ヌルヲヤ}兼^レ之^ヲ乎」を平易な現代語に訳せ。

第三 問

(二〇〇三年・理科)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

秦襄王病。百姓為之禱。病愈、殺牛塞禱。郎中閻遏、公孫衍出見之。曰、「非社臘之時也、奚自殺牛而祠社。」怪而問之。百姓曰、「人主病、為之禱。今病愈、殺牛塞禱。」閻遏、公孫衍說、見王、拜賀曰、「過堯舜矣。」王驚曰、「何謂也。」對曰、「堯舜其民未至為之禱也。今王病、而民以牛禱、病愈、殺牛塞禱。故臣竊以王為過堯舜也。」王因使二人問之。「何里為之。」訾其里正与伍老屯二甲。閻遏、公孫衍媿不敢言。王曰、「子何故不知於此。」彼民

之所^ニ以^テ為^ス我^ガ用^ヲ者^ハ、非^ズ以^テ吾^ノ愛^{スル}之^ヲ為^ス我^ガ用^ヲ者^ニ也。以^テ吾^ノ勢^{アル}之^ヲ為^ス我^ガ用^ヲ者^ニ也。故^ニ遂^ニ絶^ツ愛^ノ道^ヲ也。」

（『韓非子』外儲說右下による）

〔注〕 ○塞禱——神の靈驗に感謝する祭祀。○郎中——侍従官。○閭閻、公孫衍——ともに人名。○社——土地神。○臘——陰曆十二月に行う祭祀。○訾——罰として金品を取り立てる。○里正——里長。○伍老——五人組の頭。○甲——よろい。○勢——權勢。

設問

- (一) 「過^ニ堯舜^ニ矣^ニ」とあるが、
 - (ア) この文の主語に当たる人名を記せ。
 - (イ) 話者はなぜそのように考えたのか。簡潔に説明せよ。
- (二) 「王因使^ニ人間^ニ之^ヲ。『何里為^レ之^ヲ』を、「為^レ之^ヲ」の内容を明らかにして、平易な現代語に訳せ。
- (三) 「絶^ニ愛道^ニ」とあるが、
 - (ア) 王がそうしたのはなぜか。簡潔に説明せよ。
 - (イ) 王は具体的には何をしたのか。簡潔に説明せよ。

第三 問

(二〇〇二年・文科)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

或^{ヒト}曰^ク、「梅^ハ以^テ曲^ヲ為^シ美^ト、直^{ナレバ}則^チ無^シ姿^シ。以^テ欹^{かたむクヲ}為^シ美^ト、正^{ナレバ}則^チ無^シ景^{シト}。」此^レ文人画
士^ニ、心^{ルモ}知^ル其^ノ意^ヲ、未^ダ可^{カラ}明^ル詔^ヲ大^{シテ}号^ス以^テ繩^ス天^ノ下^ヲ之^ノ梅^ヲ也^ニ。又^ル不^レ可^{カラ}以^テ使^中天^ノ下^ヲ
之^ノ民^ヲ斫^{ヲシテ}直^{キリ}鋤^ヲ正^ヲ、以^テ二^ノ妖^{えウシ}梅^ヲ病^{マシムルヲ}、梅^ヲ為^{シテ}業^ト、以^テ求^メ錢^ヲ也^ニ。有^{リテ}以^テ二^ノ文^ノ人^ノ画^ノ士^ノ孤^ニ
癖^ヲ之^ノ隱^ヲ、明^{ラカニ}告^グ中^中、鬻^{ヒサグ}梅^ヲ者^ニ、斫^リ其^ノ正^ヲ、鋤^キ其^ノ直^ヲ、遏^{とどメテ}其^ノ生^ヲ氣^ヲ、以^テ求^{メシム}二^ノ重^ノ価^ヲ。而^{シテ}
天^ノ下^ノ之^ノ梅^ヲ皆^ム病^ム。文^ノ人^ノ画^ノ士^ノ之^ノ禍^{わざはひ}之^ノ烈^{ナルコト}、至^{レル}此^ニ哉^ニ。予^{あがなフニ}購^ニ三^ノ百^ノ盆^ヲ、皆^ム
病^{メル}者^{ニシテ}、無^シ二^ノ一^ノ完^{まつたキ}者^ニ。既^ニ泣^{クコト}之^ノ三^ノ日^ヲ、乃^チ誓^フ療^{センコトヲ}之^ヲ。毀^{こぼチ}其^ノ盆^ヲ、悉^{ことごとク}埋^メ於^ニ地^ニ、
解^キ其^ノ縛^{いましめヲ}、以^テ二^ノ五^ノ年^ヲ為^シ期^ト、必^ズ復^シ之^ヲ全^{クセントス}之^ヲ。予^{もとヨリ}本^ニ非^{ザレバ}文^ノ人^ノ画^ノ士^ニ、甘^{ンジテ}受^ケ
二^ノ

詬厲^{こうれい}、^一關^{ひら}病梅之館^{びやうばいのかん}以^二貯^て之^ヲ。嗚呼^{ああ}。安得^{んぞ}使^メ予^ラ多^ク暇日^{じふ}又多^{カラ}閑田^{かんでん}以^テ

(龔自珍「病梅館記」による)

- 〔注〕 ○明詔大号——明らかに告示する。 ○繩——一つの基準に当てはめる。 ○妖梅——梅を若死にさせる。
- 孤癖之隱——ひそかな愛好・奇癖。 ○詬厲——非難。

設問

- (一) 「梅以^レ曲為^レ美、直則無^レ姿」を、平易な現代語に訳せ。
- (二) 「文人画士孤癖之隱」が「天下之梅皆病」という結果をもたらすのはなぜか。簡潔に説明せよ。
- (三) 「予購^三三百盆、皆病者、無^二一完者^一」を、平易な現代語に訳せ。
- (四) 「予本非^三文人画士、甘受^三詬厲^一」とあるが、筆者が甘受する「詬厲」とはどのようなものか。具体的に説明せよ。
- (五) 筆者が「病梅之館」を開く目的は何か。簡潔に説明せよ。

第三問

(二〇〇二年・理科)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。

応^{おう} 郴^{ちん} 為^り 汲^{きふ} 令^ノ。以^テ 夏^ニ 至^ル 日^ヲ 見^ミ 主簿^ニ 杜宣^{とせんヲ} 賜^フ 酒^ヲ。時^ニ 北壁^ノ 上^ニ 有^リ 懸^{クル} 赤^ニ 弩^{ビヲ} 照^{ウツリ}

於^ニ 盃^ノ 中^ニ 其^ノ 形^ノ 如^シ 蛇^ノ。宣^ニ 畏^{おそレテ} 惡^{にくム} 之^ヲ。然^ニ 不^レ 敢^レ 不^レ 飲^ル。其^ノ 日^ニ 便^{すなはち} 得^テ 胸^ノ 腹^ノ 痛^ク 切^{ナルヲ}、

妨^シ 損^シ 飲^ヲ 食^ヲ。大^{イニ} 以^テ 羸^{るい} 露^{ろス}。攻^{スルコト} 治^ヲ 万^{ナルモ} 端^ノ 不^レ 為^サ 瘡^{いユルコトヲ}。後^ニ 郴^ニ 因^{リテ} 事^ニ 過^{よギリテ} 至^リ 宣^ノ 家^ニ、

窺^{うかがヒ} 視^テ、問^{フニ} 其^ノ 变^ヲ 故^ヲ、云^フ、「畏^ル 此^ノ 蛇^ヲ。蛇^ニ 入^{レリト} 腹^ノ 中^ニ。」郴^ニ 還^リ 聽^ニ 事^ニ 思^{スルコト} 惟^や 良^{シクシテ} 久^ミ、顧^{ミテ}

見^{ルニ} 懸^{クルヲ} 弩^ヲ、「必^ズ 是^レ 也^ト。」則^チ 使^メ 鈴^ヲ 下^{ヲシテ} 徐^{おもむろニ} 扶^{かつギ} 輦^{かゴヲ} 載^セ 宣^ヲ、於^テ 故^ニ 处^ニ 設^{クレバ} 酒^ヲ、盃^ニ 中^ニ 故^{もとヨリ}

復^{また} 有^リ 蛇[。] 因^{リテ} 謂^フ 宣^ニ、「此^レ 壁^ノ 上^ノ 弩^{ナルのみ} 影^ノ 耳[、] 非^{ズト} 有^{ルニ} 他[。] 怪^ニ。」宣^ノ 意^ニ 遂^ニ 解^ケ、甚^ダ 夷^い 懌^{えきシ}、由^リ

是^レ 瘳^{いユ} 平^{ラダ}。

(応劭『風俗通義』による)

〔注〕 ○応——後漢の人。 ○汲令——汲県（河南省）の長官。 ○主簿杜宣——主簿は県の長官の部下。杜宣は人名。
○弩——おおゆみ。 ○羸露——衰弱。 ○聴事——役所。 ○鈴下——県の長官の護衛兵。 ○夷憚——よろこぶ。

設問

- (一) 「宣畏悪_レ之。然不_二敢不_レ飲_一」とあるが、
 - (ア) これを平易な現代語に訳せ。
 - (イ) 杜宣はなぜ「然不_二敢不_レ飲_一」だったのか。簡潔に説明せよ。
- (二) 「得_二胸腹痛切_一、妨_二損飲食_一、大以羸露」_一とあるが、そうなったのはなぜか。簡潔に説明せよ。
- (三) 「必是也」とはどういうことか。具体的に説明せよ。
- (四) 「由_レ是瘳平」_一とあるが、それはなぜか。わかりやすく説明せよ。

第三問

(二〇〇一年・文科)

先頭に戻る

次のAは唐の詩人李賀(七九一―八一七)の詩、Bはこの詩について明の曾益が書いた文章である。A、Bを合わせて読み、後の設問に答えよ。

A. 蘇小小墓

幽蘭露

如啼眼

無物結同心

煙花不堪剪

草如茵

松如蓋

風為裳

水為珮

油壁車

久相待

冷翠燭

勞光彩

西陵下

風雨晦

B.

幽蘭露^{トハ}、是^レ墓蘭露^{ナリ}、是^レ蘇小墓^{ナリ}。生時^ハ解^ニ結同心^ヲ、今^ハ無^シ物^{トシテ}可^キ結^ブ矣。煙
花^ハ已^ニ自^ラ不^レ堪^ヘ剪^{ルニ}也。時^ニ則^チ墓草^ハ已^ニ宿^{トシヘテ}而^ク如^ク茵^ノ矣、墓松^ハ則^チ偃^{オホヒテ}而^シ
蓋^ノ矣。奚^{ナニヲ}以^テ想^{セン}象^ノ其^ヲ裳^ニ、則^チ有^リ風^ノ環^{リテ}於^ニ前^ニ而^ル為^ト裳^ト、奚^ヲ以^テ髣^{セン}髴^ノ其^ヲ珮^ニ、則^チ
有^リ水^ノ鳴^{リテ}於^ニ左^ニ右^ニ而^ル為^ト珮^ト。壁車^ハ如^ク故^ノ、久^{シク}相^{テドモ}待^ト而^レ不^{タラ}來^ニ。翠燭^ニ寒^ジ
勞^{ラス}光^ス彩^{スラ}之^ヲ自^ラ照^{スラ}。西陵^ニ之下^ニ、則^チ維^{コレ}風^ノ雨^ノ之^ヲ相^キ吹^{ナホ}、尚^{ナホ}何^ノ影^ノ響^ノ之^ヲ可^{ケン}見^ル
哉。

(『李賀詩解』による)

〔注〕

○幽——奥深くほのかなさま。 ○蘇小小——五世紀の末頃、錢塘(今の浙江省杭州市)にいたという有名な歌姫。

○結同心——互いに変わらぬ愛情を誓うこと。物を贈って誓うこともある。解結同心は、その誓いが破れること。 ○煙

花——夕もやの中の花。 ○茵——車の座席の敷物。 ○蓋——車を覆う屋根。 ○裳——スカート状の衣服。 ○珮——

腰につける玉飾り。触れ合って美しい音がする。 ○油壁車——油や漆で壁を塗り装飾した車。蘇小小は外出するとき、

これに乗ったといわれる。 ○翠燭——青緑色を帯びたともしび。ここでは鬼火を指す。 ○西陵——ここでは蘇小小の

墓を指す。 ○影響——影や物音、気配。

設問

- (一) 「幽蘭露、如啼眼」は誰の眼かを明らかにして、平易な現代語に訳せ。
- (二) 「煙花不堪剪」とあるが、何のために「剪」るのかを明らかにして、平易な現代語に訳せ。
- (三) 「草如茵、松如蓋」という二句から、曾益は墓地のどんなありさまを読み取っているか。簡潔に述べよ。
- (四) 「奚以髣髴其珮、則有水鳴於左右而為珮」とあるが、「其」が何を指すかを明らかにして、平易な現代語に訳せ。
- (五) 「冷翠燭、勞光彩」は、蘇小小のどんなありさまを暗示しているか。
- (六) Aの詩は、三言の句を多用している。この形式はこの詩の中で、どのような効果を上げているか。簡潔に述べよ。

第三 問

(二〇〇一年・理科)

先頭に戻る

次の問答体の文章を読んで、後の設問に答えよ。

或^{ルヒト}問^{ヒテ}曰^ク、「堯^ハ舜^ハ伝^ヘ之^ヲ賢^ニ、禹^ハ伝^フ之^ヲ子^ニ、信^{マコトナル}乎^ト。」曰^ク、「然^{リト}。」曰^ク、「然^{ラバ}則^チ禹^ハ之^ノ賢^ハ不^レ及^バ於^ト堯^ト与^ニ舜^ニ也歟^ト。」曰^ク、「不^レ然^ラ。」堯^ハ舜^ハ之^ノ伝^{フルハ}賢^ニ也、欲^{スレバ}三^ニ天下^ヲ之^ノ得^{ンコトヲ}其^ノ所^ヲ也。禹^ハ之^ノ伝^{フルハ}子^ニ也、憂^{フレバ}後^ニ世^ヲ争^フ之^ヲ之^ノ乱^ヲ也。堯^ハ舜^ハ之^ノ利^{スルヤ}民^ヲ也大^{ナリ}、禹^ハ之^ノ慮^{おもんばか}民^ヲ也深^{シト}。」曰^ク、「禹^ハ之^ノ慮^{ルヤ}也則^チ深^{キモ}矣、伝^{ヘテ}之^ノ子^ニ而^{ラバ}当^{ルニ}不^レ淑^{ヨカラ}、則^チ奈^ト何^ト。」曰^ク、「伝^{フレバ}之^ヲ **A** ^ニ則^チ争^フ、未^ダ前^ニ定^{マラ}一^ニ也。伝^{フレバ}之^ノ子^ニ則^チ不^レ争^ハ、前^ニ定^{マレバ}也。前^ニ定^{マレバ}雖^モ不^レ当^ラ賢^ニ、猶^ホ可^シ以^テ守^ル法^ヲ。不^{シテ}前^ニ定^{マラ}一^ニ而^{レバ}不^レ遇^ハ **B** ^ニ、則^チ争^ヒ且^ツ乱^ル也。天^ハ之^ノ生^{ズルヤ}大^ヲ聖^ニ也、不^レ数^{しばしば}、其^ノ生^{ズルモ}大^ヲ惡^ニ也亦^タ不^レ数^{しばしば}。伝^{フルハ}之^ノ諸^ヲ人^ニ得^テ大^ヲ聖^ニ然^{シテ}後^ニ人^ハ莫^シ敢^テ争^フ。伝^{フルハ}之^ノ諸^ヲ子^ニ得^テ大^ヲ惡^ニ、然^{シテ}後^ニ人^ハ受^{クト}其^ノ乱^ヲ。」

(韓愈「対禹問」)による

〔注〕 ○堯——中国古代の聖人君主で、王位を舜に禅譲したといわれる。 ○舜——中国古代の聖人君主で、王位を禹に禅譲したといわれる。 ○禹——中国古代の聖人君主で、夏王朝の創始者といわれる。

設問

- (一) 「堯舜之伝賢也、欲天下之得其所也」を、「伝賢」の内容を明らかにしつつ、平易な現代語に訳せ。
- (二) 「伝之子而当不淑、則奈何」を、「伝之子」の内容を明らかにしつつ、平易な現代語に訳せ。
- (三)

と

に、それぞれ文章の趣旨に照らして最も適当と思われる漢字一字を入れよ。
- (四) 「前定雖不当賢、猶可以守法」を、「前定」の意味を明らかにしつつ、平易な現代語に訳せ。
- (五) この文章の作者は、「伝人」と比べて「伝子」の長所がどこにあると考えているか。簡潔に説明せよ。

第三 問

(二〇〇〇年・文科)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。

閩藩司庫蔵弗飭大順語左使治之。不聴。已果大亡庫銀。

悉逮官吏邏卒五十人於獄。大順曰、「盗多不過三人、而繫五

十人。即盗在、是亦四十七人冤矣。」請代治獄。左使喜属大

順。大順悉遣之、戒曰、「第往跡盗、旬日来言。」

福寧人与鉄工隣居。夜聞銷声、窺之、所銷銀元宝也。以詣官。

工曰、「貸諸某家。」某家証之曰、「然。」首者以誣坐矣。大順曰、

「鉄工貧人游食、誰有以五十金貸者。此是盗也。」令索得之、

一訊。輒輸曰、「盗者、吏舍奴也。使某開庫鑄、酬我耳。」搜

捕^レ奴^ヲ、具^ツ得^セ賊^ニ、五十人皆^ト釈^{カル}。

(何喬遠『閩書』による)

〔注〕 ○閩藩司——福建(閩)の民政をつかさどる役所。長官は左右二名の布政使。 ○弗飭——きちんとして安全管理がなされていない。 ○大順——右布政使の陶大順。 ○左使——左布政使。この時、蔵の官吏を担当。 ○邏卒——警備の兵士。 ○繫——逮捕する。 ○属——ゆだねる。 ○福寧——福建省にある地名。 ○銷——金属をとかす。 ○銀元宝——官製の銀塊。 ○誣——ありもしないことを事実のように言うこと。 ○坐——罪に問われる。 ○游食——ぶらぶらと遊んで暮らす。 ○鐸——錠。 ○贓——隠していた盗品。

設問

- (一) 「即盗在、是亦四十七人冤矣」とはどういうことか、なぜ四十七人なのかがわかるように、簡潔に説明せよ。
- (二) 「旬日来言」を、誰に何を言うのかを明介して、平易な現代語に訳せ。
- (三) 「貸諸某家」を、平易な現代語に訳せ。
- (四) 「首者」とは誰か。文中の語で答えよ。
- (五) 「此是盗也」と陶大順が判断した理由を、簡潔に説明せよ。
- (六) この事件の主犯は誰か。文中の語で答えよ。

第三 問

(二〇〇〇年・理科)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

孔子曰、「導之以政、齊之以刑、民免而無恥。導之以德、齊之以禮、有恥且格。」老氏稱、「法令滋章、盜賊多有。」太史公曰、「信哉是言也。法令者、治之具、而非下制治清濁之源也。昔天下之網嘗密矣。然姦偽萌起、其極也、上下相遁、至於不振。當是之時、吏治若救火揚沸、非武健嚴酷、惡能勝其任而愉快乎。言道德者、溺其職矣。漢興、破觚而為圓、斲雕而為朴、網漏於吞舟之魚、而吏治烝烝、不至於姦、黎民艾安。由是觀之、在彼不在此。」

(司馬遷『史記』酷吏列伝による)

〔注〕 ○政——法律。 ○老氏——老子。 ○太史公——司馬遷。 ○制治——定める。 ○姦——邪惡。

○萌起——芽生える。 ○救火揚沸——沸騰した湯をかけて火を消す。事態が切迫していることのたとえ。

○武健——勇猛な。 ○破觚而為圓——四角いものを円くする。 ○雕——彫刻。 ○烝烝——純良なさま。

○黎民——人民。 ○艾安——よく治まる。

設問

(一) 「法令者、治之具而非制_下治清濁之源也」を、「清濁」が何を意味するか明らかにして、平易な現代語に訳せ。

(二) 「非_三武健嚴酷、惡能勝_三其任_二而愉快乎」を、平易な現代語に訳せ。

(三) 「網漏_二於吞舟之魚_一」は、どのようなことをたとえているか。簡潔に説明せよ。

(四) 「在_レ彼不在_レ此」には、筆者のどのような主張が込められているか。簡潔に説明せよ。

第四問

(一九九九年・文科)

先頭に戻る

次の文を読んで、後の設問に答えよ（設問の都合で送り仮名を省いたところがある）。

李子南^{ノカタ}渡^{ルニ}一江^ヲ有^リ与^ニ方^{なら}舟^{ベテ}而^ヲ濟^ル者^一。兩舟之大小同^{ジク}、榜人^{ぼうじん}之多少

均^{シク}、人馬之衆寡幾相類^一。而^{しかルニ}俄^{には}見^ル其舟離^レ去^{ルコト}如^ク飛^{ブガ}、已^ニ泊^{マルヲ}彼^ノ岸^ニ。

予舟猶^ホ遄^{てん}廻^{くわい}不^レ進^マ。問^{ヘバ}其所以^ヲ、則^チ舟中人曰^ク、「彼有^レ酒以^テ飲^{マシメ}二榜人^ニ。

榜人極^{メテ}力^ヲ蕩^うレ、槳^{かい}故^の爾^{みト}」予不^レ能^ハ無^キ愧^き色^{しよく}、因^{リテ}嘆^{ジテ}曰^ク、「嗟^あ乎^あ。此^ノ区^{タル}区^{タル}。

一葦^{あし}所^レ如^{ゆク}之間^{スラ}、猶^ホ以^テ二賂^{まひ}之有^ヲ無^一、其進也^{ムヤ}有^リ疾徐先後^一。況^{まシテ}宦海^{くわんかい}競

渡^ル中、顧^{レバ}吾^ガ手^ニ無^{キヲ}金^一、宜^{むべナル}乎^{かな}至^{ルモ}今^ニ未^ダ爾^{うるほハ}一命^ニ也^{ヤト}」書^{シテ}以^テ為^ス異^ニ日^ノ觀^ト。

(李奎報『東国李相国集』より)

〔注〕 ○榜人——舟のこぎ手。 ○遄廻——行きなやむこと。 ○愧色——恥じる顔色。 ○区区——小さいさま。

○一葦——一枚のあしの葉。 ○宦海——官界。 ○一命——初めて官吏に任命されること。

設問

- (一) 「人馬之衆寡幾相類」とは、どのようなことか。具体的に説明せよ。
- (二) 「而俄見其舟離去如飛、已泊彼岸」を、平易な現代語に訳せ。
- (三) 「此区区一葦所如」とあるが、これはどのようなことを指しているか、具体的に説明せよ。
- (四) 「書以為異日觀」の異日観とは、どのようなことか、簡潔に説明せよ。

第七問

（一九九九年・文科）

先頭に戻る

次の詩は、唐の杜甫（七一二―七七〇）の作品である。これを読んで、後の設問に答えよ。

百憂集行

憶^フ年十五心尚^ホ孩^{がいニシテ}

健^{ナルコト}如^ク黄犢^{くわうとくノ}一^一走復^{リテタ}来^{きたル}

庭前八月梨^り棗^{さう}熟^{スレバ}

一日^{ルコト}上^レ樹^ニ能^ク千廻^{くわいナリキ}

即^{そく}今^{こん}倏^{しゆく}忽^{こつトシテ}已^ニ五十

坐^ざ臥^{ぐわ}只^ダ多^{クシテ}少^シ行立^一

強^{しヒテ}將^{もつテ}笑^ニ語^ヲ供^ス主^ニ人^ニ

悲^{シミ}見^ル生涯^ニ百憂^ヲ集^{マルヲ}

入^{レバ}門^ニ依^{リテ}旧^ニ四壁^ニ空^シ

老妻^ニ睹^{ミル}我^ヲ顔色^ニ同^ジ

痴^ハ兒^ハ不^レ知^ラ父子^ヲ礼^ニ

叫^{シテ}怒^{シテ}索^{もとメテ}飯^ヲ啼^{なく}門東^ニ

〔注〕 ○孩——幼児。 ○黄犢——あめ色の子牛。 ○棗——なつめ。 ○廻——回。 ○倏忽——たちまち。

○主人——この詩が作られた時、杜甫の一家は成都（四川省）の友人のもとに身を寄せていた。

設問

(一) 第一・二句「憶年十五心尚孩 健如黄犢走復来」を平易な現代語に訳せ。

(二) 第九句「入門依旧四壁空」からは、杜甫のどのような暮らしぶりがうかがわれるか。簡潔に記せ。

(三) 第十一・十二句「痴兒不知父子礼 叫怒索飯啼門東」には、杜甫の自分自身に対するどのような思いが込められているか。簡潔に述べよ。

第四問

(一九九九年・理科)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ（設問の都合で送り仮名を省いたところがある）。

人生処世、如^キ白駒^ノ過^グ隙^キ耳^の。一^コ壺^ノ之^ノ酒、足^リ以^テ養^フ性^ヲ、一^{タン}簞^ノ之^ノ食、足^ル

以^テ怡^レ形^ヲ。生^キ在^リ蓬蒿^{ハウ}、死^シ葬^ム溝壑^{コウ}。瓦棺^ガ石槨^ク、何^ヲ以^テ異^{ナル}茲^{コレ}。吾^ニ嘗^テ

夢^ミ為^リ魚^ト、因^リ化^ニ為^ル鳥^ト。当^ニ其^ノ夢^ノ也、何^ニ樂^ム如^レ之^ヲ。及^チ其^ノ覺^ム也、何^ノ憂^ヒ斯^{コレ}類^{セン}。

良^{マコト}由^ル吾^ノ之^ノ不^ル及^バ魚^ニ鳥^ノ者^ノ、遠^キ矣^ニ。故^ニ魚^ノ鳥^ノ飛^ハ浮^ハ、任^{マカ}其^ノ志^ノ性^ニ。吾^ノ之^ノ進^ハ退^ハ、

恒^ニ存^ス掌^ニ握^ニ。拳^グ手^ヲ懼^オ触^ル、搖^ウ足^ヲ恐^ル墮^ツ。若^シ使^メ吾^ヲ終^ツ得^ビ魚^ト鳥^ト同^ス遊^ス、則^チ

去^ル人^{コト}間^{カン}如^キ脱^グ屣^ガ耳^ヲ。

(『梁書』世祖二子伝より)

〔注〕 ○隙——すきま。 ○蓬蒿——よもぎの生えたくさむら。 ○溝壑——谷間。

○石槨——棺を入れる外側の石のひつぎ。

設問

- (一) 「如_二白駒過_レ隙耳_一」とは、どういうことか。簡潔に説明せよ。
- (二) 「当_二其夢_一也、何樂如_レ之_一」を平易な現代語に訳せ。
- (三) 「魚鳥飛浮、任_二其志性_一」とは、どういうことか。簡潔に説明せよ。
- (四) 「拳_レ手懼_レ触、搖_レ足恐_レ墮_一」とは、どういうことか。簡潔に述べよ。
- (五) この一文で作者の望んでいることを簡潔に述べよ。

第四 問

(一九九八年・文科)

先頭に戻る

次の文章は、清の文人方苞が友人の沈立夫に送った手紙である。これを読んで、後の設問に答えよ。

僕聞、足下比日復臥疾。凡疾、必慎於微。体既羸、則難為

療矣。足下読書鋭敏、応事与人言、不嗇精气。或曰、「冬日之

閉凍也不固、則春夏之長草木也不茂。」天地不能常有常費、而

況人乎。身非吾有也。為子、則當為父母、顧其養為人、則當為天

地、貴其生。人生最難遇者、共学之友。僕病且衰、於賢者重有望

焉。故不覺、言之危苦。惟時思之、而無異日之悔、則幸甚矣。

(『方望溪遺集』による)

〔注〕 ○危苦——きびしい忠告。

設問

(一) 「凡疾、必慎於微。体既羸、則難為療矣」を平易な現代語に訳せ。

(二) 「天地不能常有常費」とはどういうことか。簡潔に説明せよ。

(三) 「為子、則当為父母顧其養」を平易な現代語に訳せ。

(四) 「不覺、言之危苦」とあるが、筆者が沈立夫の病気を気づかうのはなぜか。両者の間柄を考えながら、その理由を簡潔に述べよ。

第七 問

(一九九八年・文科)

先頭に戻る

次の詩は、唐の詩人元稹^{げんじん}が亡き妻をしのんで詠んだものである。これを読んで、後の設問に答えよ。

謝公[、]最小偏憐^{へんりんノ}女^{むすめ}

自^{より}嫁^{シテ}黔^{けん}婁^{るニ}百事乖^{たがフ}

顧^{ミテ}我[、]無^{キラ}衣^二搜^シ蓋^{じん}篋^{けふ}

泥^{ねだリテ}他^ニ沽^カ酒^ヲ拔^{カシム}金^{きん}釵^さ

野蔬^{やそ}充^{タシテ}膳^ヲ甘^{シトシ}長^{ちやう}藿^{くわく}

落葉^レ添^{ヘントシテ}薪^ニ仰^グ古槐^{こくわい}

今日俸錢過^グ二十万^ヲ

与^{ためニ}君^ガ宮^ミ奠^{てん}復^タ宮^ム齋^ヲ

〔注〕 ○謝公最小——晋の貴族謝安の姪謝道韞のこと。元稹の妻は名門の末娘なので謝道韞になぞらえた。

○偏憐——特にかわいがること。 ○黔婁——春秋時代の隠士。貧しいが高潔な志をもつことで知られる。元稹自身をなぞらえた。 ○蓋篋——衣装箱。 ○金釵——金のかんざし。 ○長藿——伸びた豆の葉。

○古槐——えんじゅの古木。 ○俸錢——給料。 ○宮奠——霊前にものを供えて死者をまつること。

○宮齋——参会者に食事をふるまうこと。

設問

(一) 第三・四句「顧我無衣搜_レ蓋篋」泥他沽_レ酒拔_レ金釵」を、「我」と「他」がそれぞれだれを指すかを明確にして、平易な現代語に訳せ。

(二) 第五・六句「野蔬充_レ膳甘_レ長藿」落葉添_レ薪仰_レ古槐」には、(ア)だが、(イ)どのような行為を、(ウ)どのような心持ちで行ったことが描かれているか。簡潔に述べよ。

(三) 第七・八句「今日俸錢過_二十萬_一」与_レ君宮_レ奠復_レ宮_レ齋」には、作者の妻に対するどのような感慨がこめられているか。簡潔に説明せよ。

第四 問

(一九九八年・理科)

先頭に戻る

次の文章は、宋の蘇軾が龍眠居士の絵について述べたものである。これを読んで、後の設問に答えよ。

或^{ヒト}曰^ク、「龍眠居士作^ル山莊図^ヲ。使^{ムルコト}後^ニ来^ル入^ニ山^ヲ者、信^{マカセテ}足^ニ而^{クニ}行^ラ、自^ラ得^ニ道路^ヲ、如^ク見^{ルガ}所^ヲ夢^{ミル}、如^シ悟^{ルガ}前^ニ世^ヲ。見^{ルニ}山^ノ中^ノ泉^ノ石^ノ草^ノ木^ヲ、不^{シテ}問^ハ而^リ知^ル其^ノ名^ヲ、遇^{フニ}山^ノ中^ノ漁^{ギョ}樵^{セウ}隱^ニ逸^{シテ}、不^レ名^{イハ}而^ル識^ル其^ノ人^ヲ。此^レ豈^ニ強^{シテ}記^ル不^レ忘^レ者^{カト}乎。」曰^ク、「非^也。画^ク日^ヲ者^ハ常^ニ疑^レ餅^ヲ、非^{ザル}忘^{ルニ}日^ヲ也。醉^{ニモ}中^ニ不^テ以^テ鼻^ヲ飲^マ、夢^{ニモ}中^ニ不^テ以^テ足^ヲ捉^{トラヘ}。天^ノ機^ノ之^ノ所^ニ合^{スル}、不^{シテ}強^ヒ而^ラ自^ラ記^{スル}也。居士之^ノ在^{ルヤ}山^ニ也、不^レ留^メ於^ニ一^ヲ物^ヲ、故^ニ其^ノ神^ハ与^ニ万^ノ物^ノ交^{ハリ}、其^ノ智^ハ与^ニ百^ノ工^ノ通^ズ。雖^モ然^{リト}有^リ道^ノ有^リ芸^ヲ、有^{リテ}道^ノ而^レ不^レ芸^{アラ}、則^チ物^モ雖^レ形^ニ於^ニ心^ニ、不^レ形^ニ於^ニ手^ニ。」

(『東坡題跋』による)

〔注〕 ○龍眠居士——北宋の画家。 ○漁樵隱逸——漁師と木こり、隠者。 ○豈——なんと。 ○記——記憶する。
○常疑餅——とかく、まるい餅を画いたように見られる。 ○天機——人の心に自然にそなわっている能力。
○神——精神。 ○百工——もろもろの技芸。 ○芸——絵を画く技術。

設問

(一) 「使_レ後_レ来_レ入_レ山_レ者、信_レ足_レ而_レ行、自得_二道路_一」を、平易な現代語に訳せ。

(二) 或ひとが「強_レ記_レ不_レ忘」と考えた理由は何か。簡潔に述べよ。

(三) 筆者は「強_レ記_レ不_レ忘」という見方を否定しているが、それならば、画家が絵を画いたのはどのようなことだと考えているのか。簡潔に説明せよ。

(四) 「物雖_レ形_二於_一心、不_レ形_二於_一手」を、平易な現代語に訳せ。

第四問

(一九九七年・文理共通)

先頭に戻る

次の詩は、清の趙翼（一七二七—一八一四）の作品である。これを読んで、後の設問に答えよ。

有_レ客忽_{たちまち}叩_{たたき}門_ヲ

来_{リテ}送_ル潤筆_ノ需_ヲ

乞_{こひて}我_ニ作_{ラシメ}墓誌_ヲ

要_{もとめて}我_ニ工_{たくみ}為_{サシム}諛_{へつらひヲ}

言_{へバ}政_ヲ必_ズ龔_{きよう}黄

言_{へバ}学_ヲ必_ズ程朱

吾_{いささ}聊_カ以_テ為_シ戲_{レヲ}

如_{クス}其_ノ意_ノ所_ノ須_{もとムル}

補綴_{ていシテ}成_{セバ}一篇_ヲ

居_{トシテ}然_{タリ}君子_ノ徒_{タリ}

核_{ただスニ}諸_ヲ其_ノ素行_ニ

十_{きんニ}鈞_ニ無_シ一_ニ銖_{しゆモ}

此文_ノ倘_{もし}伝_{ハラバ}後_ニ

誰_カ復_タ知_{ラン}賢_ヲ愚_一

或_{イハ}且_{もシ}引_{キテ}為_シ拋_ト

竟_{つひニ}入_{レテ}史冊_ニ摹_{うつサバ}

乃_チ知_ル青史_ノ上

大半_タ亦_{スルヲ}属_レ誣_{いつはりニ}

- 〔注〕 ○潤筆需——原稿料。 ○墓誌——死者の生前の行いをたたえた文章。 ○龔黃——漢代の優れた政治家龔遂と黃霸。
- 程朱——宋代の著名な学者程顥・程頤と朱熹。 ○居然——意外にも。 ○鈞・銖——重量単位。一鈞は一一五二〇銖。
- 青史——歴史書。

設問

- (一) 第一句「有客忽叩門」とあるが、客の具体的な要件は何か。詩中の表現を抜き出して答えよ。
- (二) 第八句の「其意所須」とは、どのようなことか。具体的に説明せよ。
- (三) 第十二句「十鈞無一銖」は、どのようなことをたえているか。簡潔に説明せよ。
- (四) 第十三句・十四句「此文倘伝後 誰復知賢愚」を、必要な言葉を補いつつ、平易な現代語に訳せ。
- (五) 第十七・十八句「乃知青史上 大半亦属誣」とあるが、作者がそのように考える理由を説明せよ。

(一九九七年・文科)

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

(伊藤仁斎『古学先生文集』による)

〔注〕 ○恩——恩恵を与える。 ○中——中庸の徳をもった人。

○以寸——わずかな単位で計る。

設問

- (一) 「罰_レ之使_二人懲_レ惡、不_レ若_二賞_レ之使_二人能勸_レ善」を平易な現代語に訳せ。
- (二) 「賢不肖之相去、其間不_レ能以_レ寸」とあるが、筆者はどのようにしてそうなると考えているか。簡潔に述べよ。
- (三) 「養_二不肖子弟者、以_二善処_レ為_レ要。善処以_二能愛_レ為_レ本」を平易な現代語に訳せ。

第四問

(一九九六年・文理共通)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

女巫^ふ郝^{かく}媼^{あう}、村婦^ハ之^ハ狡黠^{かうかつ}者也^{ナル}。自言^ラ狐神^ヒ付^{クト}其体^ニ、言^フ人休咎^{きうきう}。凡^ソ人家^ノ細務^ノ、一一周知^ス。故^ニ信^{ズル}之^ヲ者甚^ダ衆^{おほシ}。嘗^テ有^リ孕婦^{りよう}問^フ所^ノ生^ム男女^ヲ。郝^ハ許^{スニ}以^{テス}男^ヲ。後^ニ乃^チ生^ム女^ヲ。婦^ハ詰^{セムルニ}以^{テス}神語^ノ無^レ驗^{キヲ}。郝^ハ瞋^{いかラセテ}目^ヲ曰^ク、「汝^ハ本^{ヨリ}心^ニ生^ム男^ヲ。某^ヲ月某^ヲ日汝^ノ母家^ノ饋^{おく}餅^{もち}二十^ヲ、汝^ハ以^テ其^ノ六^ヲ供^シ翁姑^{をうここ}、匿^{かくシテ}其^ノ十四^ヲ。自^ラ食^フ。冥^メ司^メ責^メ汝^ノ不^レ孝^ヲ、転^{ジテ}男^ヲ為^ス女^ト。汝^ハ尚^ホ不^レ悟^ラ耶[。]」婦^ハ不^レ知^ラ此^ノ事^ノ。先^ニ為^ル所^ト偵^{さぐる}、遂^ニ惶駭^{がいシテ}伏^ス罪^ニ。

一日^ニ方^キ焚^キ香^ヲ召^{スニ}神^ヲ、忽^チ端坐^ニ朗言^{シテ}曰^ク、「吾^ハ乃^チ真^ノ狐神^ノ也[。]此^ノ嫗^ハ陰謀^ノ百^ニ出^シ、以^テ妖妄^ヲ斂^{あつ}財^ヲ、乃^チ託^ス其^ノ名^ヲ於^ニ吾輩^ニ。故^ニ今^ニ日^ニ真^ニ付^キ其^ノ体^ニ、使^メ三^ニ共^ニ知^ラ其^ノ姦^ヲ。」語^ヲ訖^{をハリテ}、郝^ハ霍^{くわく}然^{ぜんトシテ}如^シ夢醒^{ムルガ}。狼^{ろう}狽^{ばい}遁^{シテ}去^シ、後^ニ莫^シ知^レ所^ヲ終^ル。

(『閱微草堂筆記』による)

〔注〕 ○媼・嫗——老婆。 ○狡黠——ずるがしこいこと。 ○休咎——幸不幸。 ○翁姑——しゅうと・しゅうとめ。

○冥司——冥界の役人。 ○惶駭——驚き恐れること。 ○霍然——はっとする様子。

設問

(一) 「婦詰以神語無驗」とは、どういうことか。簡潔に説明せよ。

(二) 「婦不知此事先為所偵」を、「此事」が何を指すか具体的に示しつつ、平易な現代語に訳せ。

(三) 「此嫗陰謀百出、以妖妄斂財、乃託其名於吾輩」を、「此嫗」と「吾輩」がそれぞれだれかを明確にしつつ、平易な現代語に訳せ。

(四) 「使共知其姦」とあるが、それはどのような方法で行われたか。具体的に述べよ。

第七 問

（一九九六年・文科）

先頭に戻る

次の詩は、魏の曹植（一九二―二三二）の作品である。これを読んで、後の設問に答えよ。

転蓬離二本根_一

颺飏随長風_一

何意迴飏拳_一

吹我入_二雲中_一

高高上_二無極_一

天路安可窮_ム

類此遊客子_一

捐_レ軀遠從_レ戎_一

毛褐不_レ掩形_一

薇藿常不_レ充_一

去去莫_二復道_一

沈憂令_二人老_一

〔注〕 ○転蓬——蓬（アカザ科の草）の根が抜け、丸くなって風に吹かれていくもの。

○迴飏——つむじ風。

○遊客子——旅人。

○從戎——従軍。

○毛褐——粗末な衣類。

○薇藿——ワラビと豆の葉。

○沈憂——深い憂愁。

設問

- (一) 第四句「吹_レ我入_二雲中_一」の「我」は何を指すか。文中の語で答えよ。
- (二) 第三句「何意迴_レ飆拳」より第六句「天路安可_レ窮」までを平易な現代語に訳せ。
- (三) 第九・十句「毛褐不_レ掩_レ形 薇藿常不_レ充」は、だれのどんな状態を描いているか。簡潔に述べよ。
- (四) この詩は全体として何をうたっているか。簡潔に説明せよ。

(一九九五年・文科)

— 100 —

設問

- (一) 「古之所_レ予_レ祿者、不_レ食_二於_一力、不_レ動_二於_一末」を、平易な現代語に訳せ。
- (二) 「夫已受_レ大、又取_レ小、天不_レ能_レ足、而況人乎」を、平易な現代語に訳せ。
- (三) 「民安能当_レ之哉」とあるが、それはどういうことか。文脈に即して具体的に説明せよ。
- (四) 「此天之理、亦古之道」とあるが、作者が「天之理」であり同時に「古之道」であると考えている基本的な原理は何か。本文中の言葉で答えよ。

第七 問

（一九九五年・文科）

先頭に戻る

次の詩を読んで、後の設問に答えよ。

題^ス 歸^ニ 夢^ニ

李賀

長 安 風 雨[、] 夜

書 客 夢^ム 昌^ニ 谷^ヲ

怡^い 怡^{いタル} 中 堂^ノ 笑^ヒ

少 弟 裁^ツ 澗^{かん} 棗^{ろうク}

家 門 厚 重[、] 意

望^ム 我^ガ 飽^{カシム} 飢^ル 腹^ヲ

勞^{タリ} 勞^{タリ} 一 寸[、] 心

灯 花 照^{ラス} 魚^ニ 目^ヲ

〔注〕

○李賀——中唐の詩人。

○書客——科擧の受験生。

○昌谷——李賀の故郷。

○怡怡——なごやかなさま。

○中堂——居間。

○澗棗——谷川のこぶなぐさ。

○灯花——灯心の燃えかすが花のようになったもの。

○魚目——魚の目はつぶらないことから、眠れない目をいう。

設問

- (一) 第三句「怡怡中堂笑」にはどういう情景がうたわれているか、具体的に説明せよ。
- (二) 第五・六句「家門厚重意 望我飽飢腹」を平易な現代語に訳せ。
- (三) この詩が作られたときの詩人の境遇と心境について説明せよ。

第四 問

(一九九五年・理科)

先頭に戻る

次の文章は清の俞正燮の「女」と題する一文である。これを読んで、後の設問に答えよ。

白居易「婦人苦」詩云、「婦人一喪夫、終身守孤子。有如林中竹、

忽被風吹折。一折不重生、枯死猶抱節。男兒若喪婦、能不暫

傷情。応似門前柳、逢春易發榮。風吹一枝折、還有一枝生。

為君委曲言、願君再三聽。須知婦人苦、從此莫相輕。」其言尤

藹然。『莊子』天道篇云、堯告舜曰、「吾不虐無告、不廢窮民。苦

死者、嘉孺子而哀婦人。此吾所以用心也。」此聖人言也。『天方

典禮』引謨罕墨特云、「妻暨僕、民之二弱也。衣之食之、勿命

以所不能。」蓋持世之人未有不計及此者。

(『癸巳存稿』より)

〔注〕 ○孤子——孤独に同じ。 ○委曲——つぶさに。

○藹然——やさしくて思いやりがあるさま。

○無告——みなし子、老人などよるべきなき人々。

○孺子——こども。

○『天方典禮』——清代の書物。

○謨罕墨特——マホメット。

設問

(一) 「一折不_二重生、枯死猶抱_レ節」は、どのようなことをたえているか。簡潔に説明せよ。

(二) 「能不_二暫傷_レ情」を、平易な現代語に訳せ。

(三) 「衣_レ之食_レ之、勿_二命以_レ所不_レ能」を、「之」の内容がわかるように、平易な現代語に訳せ。

(四) 「持_レ世之人未_レ有_下不_二計及_レ此者_上」を、「此」の指示する内容を明らかにして、簡潔に説明せよ。

第四問

(一九九四年・文理共通)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

唐^ニ有^リ殷^{いん}安^{ナル}者^一。嘗^テ諱^{わらヒテ}其^ノ子^ノ堪^{かん}為^ル宰相^ト曰^{ハク}、「汝^ハ肥頭大面^{ニシテ}、不^レ識^ラ今^ノ古^ヲ。噉^{たう}食^{シテ}無^シ意^シ智^一。不^レ作^{ナラ}宰相^ト而^モ何^{ゾヤト}」我^{おもヘラク}謂^フ肥頭大面^{ニシテ}能^ク噉^{スル}食^ハ猶^ホ盛^{ニハ}時^ル有^ニ福氣^ニ宰相^ト也。若^{キハ}末^ノ世^ノ只^ダ「無意智不識今古^ノ」七^ノ字^ミ、足^{ルト}作^ル宰相^ト矣^ニ。記^{スアリ}。

僖^き・昭^ノ時^ノ、有^リ白^{さん}衫^ノ拳^ノ子^一、乞^{こヒテ}而^モ歌^{ヒテ}於^ニ市^フ云^フ、

執^リ板^{ばん}高^{シテ}歌^フ乞^フ箇^こ錢^一 塵^ニ中^ニ流^{シテ}浪^{まさニ}且^{ハント}隨^レ緣^ニ

直^た饒^{とひ}到^ル老^ニ長^ク如^{キモ}此^{クノ} 猶^ホ勝^ル危^ニ時^ニ弄^{ろうスル}化^ニ權^一

嗟^サ乎^一、使^{メバ}白^下衫^ノ拳^ノ子^一寧^ロ為^{ルトモ}乞^{きつ}丐^{かいト}無^カ為^ル宰相^ト、天^ン下^ゾ安^ン得^{ンヤ}不^レ亡^ビ。

(胡震亨『唐詩談叢』による)

〔注〕 ○喰食——むさぼり食う。大食い。 ○僖・昭——唐末の皇帝僖宗と昭宗。唐はこの次の代で滅んだ。

○白衫——白い上着。当時の読書人のふだん着。 ○拳子——科挙の勉強をしている書生。

○板——木片を打ち合わせて拍子をとる粗末な楽器。 ○塵中——ごみごみした世間。

○随縁——前世の縁にすがる。見知らぬ人の恵みを請う。 ○化権——政治権力。 ○乞丐——こじき。

設問

(一) 「不_レ作_二宰相_一而何」を、平易な現代語に訳せ。

(二) 筆者は、「末世」にはどういう人が「足_レ作_二宰相_一矣」と考えているか、説明せよ。

(三) 「如_レ此」とは、具体的にはどのようなことか。

(四) 「天下安得_レ不_レ亡」とあるが、筆者がそう考える理由を簡潔に説明せよ。

第七 問

(一九九四年・文科)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。なお、文中の主人公である道安は、若くして出家したが、容貌が醜かったために、師匠に重んぜられることなく、農作業などの寺の雑役に従事していた。

数歳之後、道安方はじめて啓もうシテ師求ム經ヲ。師与フ『弁意經』一卷ばかり可二五千言一。安

齋たづさへ經入リ田、因リテ息いこふニ就すなはチ覽ミル。暮歸ニ以リテ經還シ師、更求ム余者ヲ。師曰ハク、「昨ノ經

未ダ讀マ、今復タ求ムル耶ト。」答曰ヘテハク、「即チ已ニ闇誦セリト」師雖異モトスト之ヲ、而未ダ信ゼ也。復タ与フ

『成具光明經』一卷たらざる減二一万言一。齋フルコト之ヲ如ク初メノ、暮復還タスニ師。師執リテ經ヲ

復セシムルニ之ヲ、不レ差たがハ一字モ。師大驚イニ嗟さシテ而異トス之ヲ。後、為ニ授具戒ケヲ、恣ゆるス其遊學スルヲ

至リ鄴入リ中寺、遇フ二仏ニ。澄見テ而嗟嘆シ、与ニ語終日ナリ。衆見テ形貌不レ称かなハ

咸共輕怪ス。澄曰ハク、「此人遠識、非ザル爾儔なんぢノともがらニハ也。」因リテ事澄為ス師ト。

(慧皎『高僧伝』による)

〔注〕 ○『弁意經』『成具光明經』——いずれも仏教の教典。

○具戒——出家者が二十歳になって授けられる戒律。

○鄴——現在の河南省臨漳県。

○仏図澄——四世紀に活躍した高名な西域渡来僧。

○衆——僧衆。修行者たち。

設問

(一) 「師雖異之、而未信也」を、平易な現代語に訳せ。

(二) 「齋之如初」とは、誰の、どのような行為をいうのか、具体的に述べよ。

(三) 「此人遠識、非爾儔也」とあるが、仏図澄は「衆」に対してどういうことを論そうとしたのか、簡潔に説明せよ。

第 四 問

（一九九三年・文科）

先頭に戻る

次の詩は、北宋の詩人蘇軾そしやくの作である。これを読んで、後の設問に答えよ。

清 風 定 何 物

可 愛 不 可 名

所 至 如 君 子

草 木 有 嘉 声

我 行 本 無 事

孤 舟 任 斜 横

中 流 自 偃 仰

適 与 風 相 迎

举 杯 属 浩 渺

楽 此 兩 無 情

歸 来 兩 溪 間

雲 水 夜 自 明

〔注〕

○嘉声——よい音。よい評判。ここでは二つの意味を掛ける。

○無事——特別な用事のないこと。

○偃——横になること。

○属——酒をすすめること。

○浩渺——广大ではるかなさま。ここでは大空をいう。

○此兩——浩渺に代表される自然と自分。

設問

- (一) 「如_三君子_二」とあるが、
 (ア)それは何を指すか、
 (イ)なぜそう言われているか、簡潔に説明せよ。
- (二) 第五句から第八句まで、
 作者はどこで何をしているか、
 情景がよくわかるように具体的に述べよ。
- (三) 第九句・第十句にこめられた作者の心境はどのようなものか、
 簡潔に説明せよ。

第七 問

（一九九三年・文科）

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。ただし設問の都合で、送り仮名を省いたところがある。

ト者、子不_レ習_二本業_一、父譴_二怒_ス之_一。子曰_ク、「此甚_ダ易_キ耳_ト。」次日有_リ下_二従_二風雨_一、中_一求_レト者_上、父命_レ子試_レ為_レ之_一。子即_チ問_レ曰_ク、「汝東方来_{タル}乎_{カト}。」曰_ク、「然_{リト}。」復_タ問_フ、「汝為_ニ妻_ガト乎_{カト}。」亦_タ曰_ク、「然_{リト}。」其人ト畢_{をはリテ}而去_ル。父驚_{キテ}問_レ曰_ク、「爾何_ソ前_ニ知_{ルコト}如_レ此_ノ。」子答_{ヘテ}曰_ク、「今日_ハ乃_チ東風_{ナリ}、其人向_{ヒテ}□_ニ而_{タリ}来_{タリ}、肩背_{ことごとク}尽_{レリ}湿_。是以_ヲ知_レ之_ヲ。且風雨_{ニスラ}如_レ是_ノ。不_{シテ}為_ニ妻_ガ誰_カ肯_{アヘテ}為_ニ父母_ノ出_セ来_。」或_{ヒト}曰_ク、「ト者、子甚_ダ聰明_{ナレドモ}、可_レ惜_{キハム}不_{リキ}曾_テ讀_マ孟子_ヲ。若_シ讀_二了_{セシ}孟子_ヲ時_{ニハ}、便_チ知_ル人性_ノ皆_ナ善_{ナルヲ}。豈_ニ有_{ランヤト}下_二視_{ルコト}父母_ヲ反_{リテ}輕_キ於_二妻_{ヨリモ}之_一理_上。」

（『笑賛』による）

〔注〕○卜者——うらない師。

設問

- (一) 「父命_レ子試為_レ之」を、「之」の内容がわかるように、平易な現代語に訳せ。
- (二) 「汝為_レ妻卜乎」ということが、なぜわかったのか、簡潔に説明せよ。
- (三) 文中の□に入るべき適当な漢字は何か、一字で答えよ。
- (四) 「豈有_下視_上父母反輕_二於妻_一之理_上」を、平易な現代語に訳せ。

第四問

(一九九三年・理科)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

自^リ宋以前^ハ、士之^ム読^レ書者多^シ。故^ニ所^ハ貴^ブ不^レ在^ラ博^ニ、而^ル在^ニ考弁之精^ニ也。至^{リテ}明^ニ、学者多^ク束^{ネテ}書^ヲ不^レ読^マ、自^リ举^リ業外^ハ、茫^{ばうトシテ}無^シ所^レ知^ル。於^{イテ}是^{ここニ}才智之士務^{メテ}搜^シ覽^シ新異^ヲ、無^ク論^ニ雜家^ノ小説^ト、近世^ノ賸書^{トニ}、凡^ッ昔人^ノ所^ノ鄙^{いやシミテ}而^ル不^レ屑^{いさぎよシトセ}道^{イフラ}者^ハ、咸^{みな}居^{おキテ}之^ヲ為^シ奇貨^ト、以^テ傲^{おごル}当世^ノ不^レ読^マ書^ヲ之人^ニ。曰^ク、「吾誦^シ得^{タリト}陰符・山海經^一矣。」曰^ク、「吾誦^シ得^{タリト}呂氏春秋・韓詩外伝^一矣。」公然^ト自^ラ詫^{ほこリ}於^ニ人^ニ、人亦公然^ト詫^{ほこリトシテ}之^ヲ以^テ為^ス博^{シト}。若^{キハ}六經^ヲ為^{シテ}二^ニ藜藿^{れいくわクト}、而此書^ヲ為^ス二^ニ熊掌^ト者^ノ上^{マことニ}良^ニ可^キ慨^{なげク}也[。]

(『考信録』による)

〔注〕 ○挙業——科挙のための学問。 ○奇貨——大きな利を生む珍しい品。

○陰符・山海經・呂氏春秋・韓詩外伝——いずれも書名。 ○六經——儒教の六つの經典。

○藜藿——アカザと豆の葉。 ○熊掌——熊の手のひら。 高級料理の食材。

設問

(一) 「所_レ貴不_レ在_レ博、而在_二考弁之精_一也」とは、どういうことか、わかりやすく説明せよ。

(二) 「自_二挙業_一外、茫無_レ所_レ知」を平易な現代語に訳せ。

(三) 「曰、『吾誦_二得陰符・山海經_一矣』曰、『吾誦_二得呂氏春秋・韓詩外伝_一矣』」とあるが、

(ア) このように「曰」う者は、だれか、本文中の言葉で答えよ。

(イ) このように「曰」うことが、なぜ「公然自詫_二於人_一」になるのか、簡潔に説明せよ。

(四) 「若_下六經為_二藜藿_一、而此書為_二熊掌_一者_上、良可_レ慨也」とあるが、作者や「六經」と「此書」とを、どのように取り扱うべきだと考えているか、簡潔に説明せよ。

第四 問

（一九九二年・文理共通）

先頭に戻る

中国には「望夫石」「望夫山」と呼ばれる岩や山が各地にある。いずれも〔Ⅰ〕に見るような伝説に基づくものであり、これらを歌った詩も多い。〔Ⅱ〕〔Ⅲ〕は、その代表的なものである。これを読んで、後の設問に答えよ。

〔Ⅰ〕 武昌陽新県北山上、有望夫石、状若二人立者。伝云、「昔有貞婦、其夫從役、遠赴国難。婦携弱子、餞送此山。立望而形化、シテルトト為石。」

（『列異伝』）

〔Ⅱ〕 顒望臨碧空、

怨情感離別、

江草不知愁、

巖花但爭発、

雲山万重隔、

音信千里絶、

春去秋復来、

相思幾時歇、

〔Ⅲ〕 終日望夫夫不歸、

化為孤石苦相思、

望来已是幾千載、

只似當時初望時、

（劉禹錫『望夫石』）

（李白「望夫山」）

〔注〕 ○願望——仰望に同じ。

設問

(一) 〔Ⅰ〕の文中の「役」「弱」を含む二字の熟語をそれぞれ一つずつ挙げよ。ただし「役」「弱」は文中で用いられている意味と同じであること。(例) 貞婦↓貞節

(二) 〔Ⅰ〕の「立望而形化為石」とはどういうことか。わかりやすく説明せよ。

(三) 〔Ⅱ〕の「江草不知愁 巖花但争発」を、作者の感慨がわかるように、平易な現代語に訳せ。

(四) 〔Ⅲ〕の「望来已是幾千載 只似當時初望時」はどういう意味か。簡潔に要約して述べよ。

第七 問

(一九九二年・文科)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

李信純、家養一狗、字曰黒龍。愛之尤甚。行坐相随、飲饌之間、皆分与食。忽一日、於城外飲酒大醉。歸家不及、臥於草中遇太守鄭瑕出獵、見田草深、遣人縱火燒之。信純臥処、恰當順風。犬見火来、乃以口拽信純衣、信純亦不動。臥処、比有一溪、相去三五十步。犬即奔往入水、湿身走来臥処、周廻以身灑之、獲免。主人大難。犬運水困乏、致斃於側。俄而信純醒来、見犬已死、遍身毛湿、甚訝其事。覩火踪跡、因而慟哭。聞於太守。太守憫之曰、「犬之報恩甚於人。人不知恩、豈如犬乎。」

(『搜神記』による)

〔注〕 ○飲饌——飲食。 ○致斃——倒れ死ぬこと。

設問

- (一) 「行坐相隨、飲饌之間、皆分与食」を平易な現代語に訳せ。
- (二) 「犬即奔往入_レ水」から「主人大難」までを、犬がどのような動作をしたかがわかるように、簡潔に説明せよ。
- (三) 「犬之報_レ恩甚_二於人_一。人不_レ知_レ恩、豈如_レ犬乎」を平易な現代語に訳せ。

第四問

(一九九一年・文科)

先頭に戻る

次の詩は、南朝・梁の詩人庾信[㊦]が北朝に仕えるようになってから詠んだ詩である。これを読んで、後の設問に答えよ。

梅花

当年蠟月半^{ニシテ}

已覺梅花闌^{たけなはナルヲ}

不信今春晚^{おそキヲ}

俱来雪裏看^ル

樹動懸冰落^チ

枝高出^{ダセバ}手寒^シ

早知^{つとニ}覓^{ラバもとム}不見^{トエ}

真悔^{ニユ}着^ツ衣^ノ单^{ナルヲ}

〔注〕 ○庾信——南朝・梁の元帝の命で北朝・西魏の都長安に使いしている間に梁が滅び、そのまま西魏・北周に仕えた。

○蠟月——旧暦十二月。

○懸冰——木にかかっている氷。つらら。

設問

- (一) 「当年」とは、ここではどういう時期のことを指しているか。
- (二) 「不_レ信今春晚 俱来雪裏看」を、平易な現代語に訳せ。
- (三) 「枝高出_レ手寒」とあるが、作者は何をしようとしたのか。
- (四) 「早知_二覓不_レ見 真悔_二着衣单_一」を、作者の感慨がわかるように、適当な言葉を補いながら平易な現代語に訳せ。

第七 問

(一九九一年・文科)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

楊誠齋夫人羅氏、嘗於郡圃一種紵、躬紡緝以為衣。時年蓋八十
余矣。其子東山、月俸分以奉母。夫人忽小疾、既癒、出所積券
曰、「此長物也。自吾積此、意不樂、果致疾。今宜悉以謝医、則
吾無事矣。」生四子三女、悉自乳。曰、「飢人之子、以哺吾子、
是誠何心哉。」誠齋父子、視金玉如糞土。

(『鶴林玉露』による)

〔注〕 ○楊誠齋——名は万里。南宋の詩人。 ○圃——はたけ。 ○紵——麻の一種。 ○紡緝——つむぐ。

○東山——楊東山。このとき地方官として遠地に赴任していた。 ○券——為替。

設問

- (一) 夫人は、自分が病氣になった原因がどういふことにあると考えているか。
- (二) 「吾無_レ事矣」とは、どういふことか。具体的に説明せよ。
- (三) 「飢_二人之子_一、以哺_二吾子_一」とは、どうすることか。簡潔に説明せよ。
- (四) 「視_二金玉_一如_二糞土_一」とは、どういふ精神・態度を表しているか。本文全体をふまえて、簡潔に記せ。

第四問

（一九九一年・理科）

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

昔、楚襄王登楼台。有風、颯然而至。王曰、「快哉此風。寡人与衆共者耶。」宋玉曰、「此独大王之風。庶人安得而共之。」不知者

以為諂也。知之者以為諷。

唐文宗為詩曰、

「人皆苦炎熱、

我愛夏日長。」

柳公權続之曰、

「薰風自南來、

殿閣生微涼。」

惜乎、宋玉不在此傍。

（『詩話総龜』による）

〔注〕 ○楚襄王——戦国時代の楚国の王。

○宋玉——襄王と同時代の詩人。

○柳公権——文宗の側近の臣。

設問

(一) 本文の中から、「衆」と同じ意味の語を一つ抜き出せ。

(二) 「安得而共_レ之」を、平易な現代語に訳せ。

(三) 「不知_レ者」は、宋玉の言葉をどう理解して、「諷」ではなく「諂」であるとしたのか。簡潔に答えよ。

(四) 「惜乎、宋玉不在_レ傍」には、柳公権に対する筆者のどのような気持ちがこめられているか。簡潔に答えよ。

第四問

(一九九〇年・文科)

先頭に戻る

次の詩を読んで、後の設問に答えよ。

荒園^ニ独歩^{ひとりム}

袁宏道^{ゑんくわうだう}

寒食^ニ春猶爛^{ホたけなはニ}

東風草^{おのづから}自芊芊^{しげル}

花^ハ燃^{ヤシ}無^{キノ}焰^{ほのほ}火^ヲ

柳^ハ吐^ク不^{ルノ}機^セ綿^ヲ

宦^{くわんハ}博^シ人^{じん}間^{かんノ}累^{わづらヒヲ}

貧^ハ遭^フ妻^ニ子^ノ憐^{ミニ}

微官^{モシ}如^{クンバ}可^レ典^ス

乞^{あたヘヨ}我^ニ買^フ山^ヲ錢^ヲ

〔注〕 ○袁宏道——明^{みん}の文人。一五六八—一六一〇。当時彼は呉県の県知事だった。

○寒食——寒食節のこと。陰暦四月三、四日ごろ。この日は、火を用いて煮たきすることを慎み、前日までに作っておいた冷い食物を食べる習慣があった。

○機——織機にかけて織る。

設 問

○綿——ここでは柳絮りゅうじよ。すなわち、春、シダレヤナギの種子に生ずる白いわた毛を指す。

○宦——「官」と同じ意。

○博——取る。

○典——典売。売ること。

○買^レ山——山を買ってそこに隠棲すること。

(一) 第一句を平易な現代語に訳せ。

(二) 第三句にはどのような情景がうたわれているか、第一句との関係がわかるように説明せよ。

(三) 第五句を平易な現代語に訳せ。

(四) 第七・八句で、作者はどういうことを言おうとしているのか、簡潔に説明せよ。

第七 問

(一九九〇年・文科)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

借^{カスモ}書^ヲ一^ノ痴^ノ、還^{スモ}書^ヲ一^ノ痴^{ナリトハ}、殊^{ことニ}失^フ忠厚^ノ、氣象^ヲ。書^ハ非^ズ天^{ヨリ}降^リ地^{ヨリ}出^{ツルニ}、必^ズ因^{リテ}人^ニ

得^レ之^ヲ。得^テ而^シ秘^シ之^ヲ、自^ラ示^{スコト}不^レ広^{カラ}、人^モ亦^タ豈^ニ肯^{ヘテ}以^テ未^ダ見^ル者^ヲ相^{カサ}俵^{ンヤ}。聚^{あつムルモ}而^シ必^ズ

散^{ズルハ}、物理^ノ之^{ナリ}常^ヲ。父兄^{スルモ}藏^レ書^ヲ、惟^た恐^ル子^ニ弟^ノ不^レ読^マ、読^{ムモ}無^キ所^レ成^ル。猶^ホ勝^{ラン}下^ニ腐^レ爛^シ

篋^{けふ}筥^{しニ}、旋^{ツイデ}致^{スニ}蠹^{むしば}。書^ヲ之^ヲ変^上。陳^ス亞^ニ藏^ス書^ニ千^ノ卷^ヲ、名^ノ画^ヲ、怪^ノ石^ヲ、異^ノ花^ヲ。作^リ詩^ヲ

戒^{メテ}其^ノ後^ヲ、曰^{ハク}、

満室^{マニシツ}凶書^{マニシツ}、雜^{マシフ}典墳^{マニ}

華亭^{カテイ}仙客^{センカク}、岱^{タイ}雲根^{ウンネ}

他年^{モシ}若^{ンバ}不^ニ和^{ともニ}花^ト、売^ラ

便^チ是^レ吾^ガ家^ノ好^キ子孫^{ナリト}

亜死^シ、悉^{ことごとク}歸^ス他^ニ人^ニ。

- 〔注〕 ○仮——「借」と同じ意。 ○篋笥——書籍や衣服を入れる箱。 ○陳亜——宋の文人。
○典墳——古書のこと。 ○華亭仙客——鶴の画を指す。
○岱雲根——岱山（泰山）にかかる雲の形をした庭石を指す。

設問

- (一) 「借_レ書一痴、還_レ書一痴」とは慣用の文句であるが、どういう意味か。
- (二) 「人亦豈肯以_二未_レ見者_一相仮」を、平易な現代語に訳せ。
- (三) 「猶勝_下腐_中爛篋笥、旋致_中蠹_上書之_二変_上」とあるが、何に勝っていると言っているのか。簡潔に説明せよ。
- (四) 「亜死、悉歸_二他人_一」という言葉には、陳亜に対する筆者のどのような気持がこめられているか。

第四問

(一九九〇年・理科)

先頭に戻る

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

司徒北平王家、猫有^ニ生^ム子^ヲ同^ジ日^者。其^一死^ス焉。有^ニ一^子飲^ム於^ニ死^母。母^且死^{セント}、其^ノ鳴^ク咿^イ咿^イ。其^一方^乳其^子、若^シ聞^ク之^ヲ。起^チ而^若聽^ク之^ヲ、走^リ而^若救^フ之^ヲ。銜^ニ其^一、置^ク于^ニ其^ノ棲^ニ。又^往如^ク之^ヲ。反^リ而^乳之^ニ。若^ク其^子然^リ。噫^ア、亦^タ異^{ナル}之^ナ大^{ナル}者^也。夫^{ソレ}猫^ハ人^ハ畜^也。非^{ザル}性^ニ於^ニ仁^義者^也。其^レ感^{ゼシ}於^ニ所^ノ畜^者者^ニ乎^哉。北平王牧^ハ人^ヲ以^テ康^ヲ、伐^ツ罪^ヲ以^テ平^ヲ、理^ニ陰^陽、以^テ得^{タリ}其^ノ宜^一。

(『韓昌黎文集』による)

〔注〕 ○司徒北平王——中唐の宰相馬燧(七二六—七九五)。

○咿咿——擬声語、猫の鳴き声。

設問

- (一) 「其一」という語が、 $a \cdot b \cdot c$ の三箇所あるが、それぞれ何をさしているか。
- (二) 「又往如之」とはどういうことか。具体的に説明せよ。
- (三) 「乳之若其子然」を、平易な現代語に訳せ。
- (四) 「異之大者」とはどういうことか。簡潔に説明せよ。
- (五) 「其感於所畜者乎哉」を、平易な現代語に訳せ。

第四問

(一九八九年・文科)

先頭に戻る

次の詩を読んで、後の設問に答えよ。

夜坐

元稹

雨滞_リ更_ニ愁_フ南瘴_{シヤウノ}毒

月明_{ラカニ}兼_{ネテ}喜_ブ北風_ノ涼_{シキラ}

古城_ノ楼影_ノ横_{ギリニ}空館_ヲ

湿地_ノ虫声_ノ遶_{めぐルニ}暗廊_ヲ

萤火_ノ乱飛_{ビテ}秋已_ニ近_ク

星辰_ノ早没_{シテ}夜初_{メテ}長_シ

孩提_{がいてい}万里_ノ何_{いづレノ}時_{ニカ}見_ン

狼籍_{らうぜきトシテ}家書_ノ満_ツ臥床_ニ

〔注〕 ○元稹——中唐の詩人（七七九—八三二）。この時彼は地方官となって南方に赴任していた。

○南瘴——昔、中国では、南方の風土病であるマラリヤは、瘴気と呼ばれる毒気に当てられて起こる熱病と考えられていた。

○星辰——ほし。 ○孩提——子供。 ○狼籍——乱雑に散らばっている。 ○臥床——寝台。

設問

- (一) 第二句を、第一句との関連がわかるように平易な現代語に訳せ。
- (二) 「空館」は、ここではどういう意味か。
- (三) 第七句を平易な現代語に訳せ。
- (四) 第八句からは、作者のどのような心情が読みとれるか、簡潔に記せ。

第七 問

(二九八九年・文科)

先頭に戻る

次の文を読んで、後の設問に答えよ。

曹州^ノ於^レ令儀^{ギナル}者^ハ、市井^ノ人也。長厚^{ニシテ}不^レ忤^{サカラハ}物^ニ。晚年家頗^{スゴブル}豐滿^{ナリ}。一夕盜入^リ其家^ニ、諸子擒^{とらフレバ}之^ヲ、乃隣里子也。令儀曰^{ハク}、「爾^{なんぢ}素^{もとヨリ}寡^{すくなキニ}過^チ、何苦^{シミテ}而^セ為^{セル}盜耶^ト。」答曰^{ヘテハク}、「迫^{ラルル}於貧^ニ耳^ト。」問^フ其所欲^{スル}曰^{ハク}、「得^バ十千^ヲ、足^{ラント}三以^テ資^{スルニ}衣食^ニ。」如^ク其欲^{スル}与^フ之^ニ。既去^{ニルニ}、復呼^{マタブ}之^ヲ。盜大懼^{イニおそル}。語^{ツゲテ}之^ニ曰^{ハク}、「爾貧^{ナルコト}甚^{ダシキニ}、負^{ヒテ}十千^ヲ以^テ歸^{ラバ}、恐^{ラクハ}為^{ラント}邏者^ノ所詰^{スル}。」留^メ之^ヲ、至明^ニ使^ム去^ラ。盜大感愧^{イニキシ}、卒^{つひニ}為^{レリ}良民^ト。

(『厚德録』による)

〔注〕 ○曹州——地名、現在の山東省曹県。

○於令儀——人名。

○十千——一万錢。

○邏者——見回りの警吏。

設問

(一) 「長厚不忤物」とはどういうことか。

(二) 「爾素寡過、何苦而為盜耶」を、平易な現代語に訳せ。

(三) 「得_二十千_一、足_二以資_三衣食_一」を、平易な現代語に訳せ。

(四) 「既去、復呼之」とあるが、於令儀はなぜ盗人を呼びもどしたのか。

第四問

（二九八九年・理科）

先頭に戻る

次の文を読んで、後の設問に答えよ。

昔有^リ一友人、以^テ豪爽^{さうら}自喜^ラ。同入^ニ西山^ニ。時初春^{ナルニチ}、乃裸体^{ヌダ}跣足^{センシテ}入^ニ

玉泉山^ニ、裂帛^{れつぱく}湖中^ニ。人皆詫^た異^シ之^ヲ。彼亦沾沾^{タセン}自喜^ラ。過^{グルコト}数載^{スウサイ}、予

私問^{ひそかにヒテ}之^ニ曰^{ハク}、「卿往年^{けい}跣足^{シテ}入^ニ裂帛湖^ニ、可^{シト}称^ス豪爽^ト。」其人^{きん}欣然^{タリ}。予再^ビ

問^{ヒテ}之^ニ曰^{ハク}、「北方^ニ初春^ハ、冰雪稜稜^{タリ}。入^{リシ}時得^ン無^キ小苦^コ耶。幸^{ねがハクハ}無^レ欺^ク我^ヲ。」

其人^ノ曰^{ハク}、「甚^ダ苦^{シム}。至今^{ルモ}冷氣^ニ入^{リテ}骨^ニ、得^ニ一脚痛病^ヲ、尚^ホ未^ダ痊^{イエ}也。当時^ニ自^ラ

為^{おもヒテ}豪爽^ト、為^{スモ}之^ヲ不^{リキト}知^ラ其害^ノ若^{クナルヲ}此^{コノ}。」然則^{ラバ}世上豪爽^ノ事^ニ、其不^ル為^{タラ}裂帛^ニ

湖中濯^{すすグコト}足^ヲ者寡^{すくナシ}矣。

（『珂雪齋集』による）

〔注〕 ○豪爽——豪快な男らしさ。 ○西山——現在の北京市西郊にある山地。玉泉山はその手前の小山。
○跣足——はだしになる。 ○詫異——驚いて目をみはる。 ○沾沾——浮き浮きして。
○卿——きみ。あなた。 ○稜稜——身を切るように冷たい。

設問

- (一) 「自喜」が二箇所あるが、その最も適切な訳語を記せ。
- (二) 「私問之」の「私」には、筆者のどのような心理がはたらいているか、簡潔に説明せよ。
- (三) 「得無小苦耶」を、平易な現代語に訳せ。
- (四) 「若此」とは、具体的にはどういうことか、要約して記せ。
- (五) 「裂帛湖中濯足」とあるが、筆者は「世上豪爽事」を、結局どのようなものと見なしているか、簡潔に記せ。